

A 身体障害者

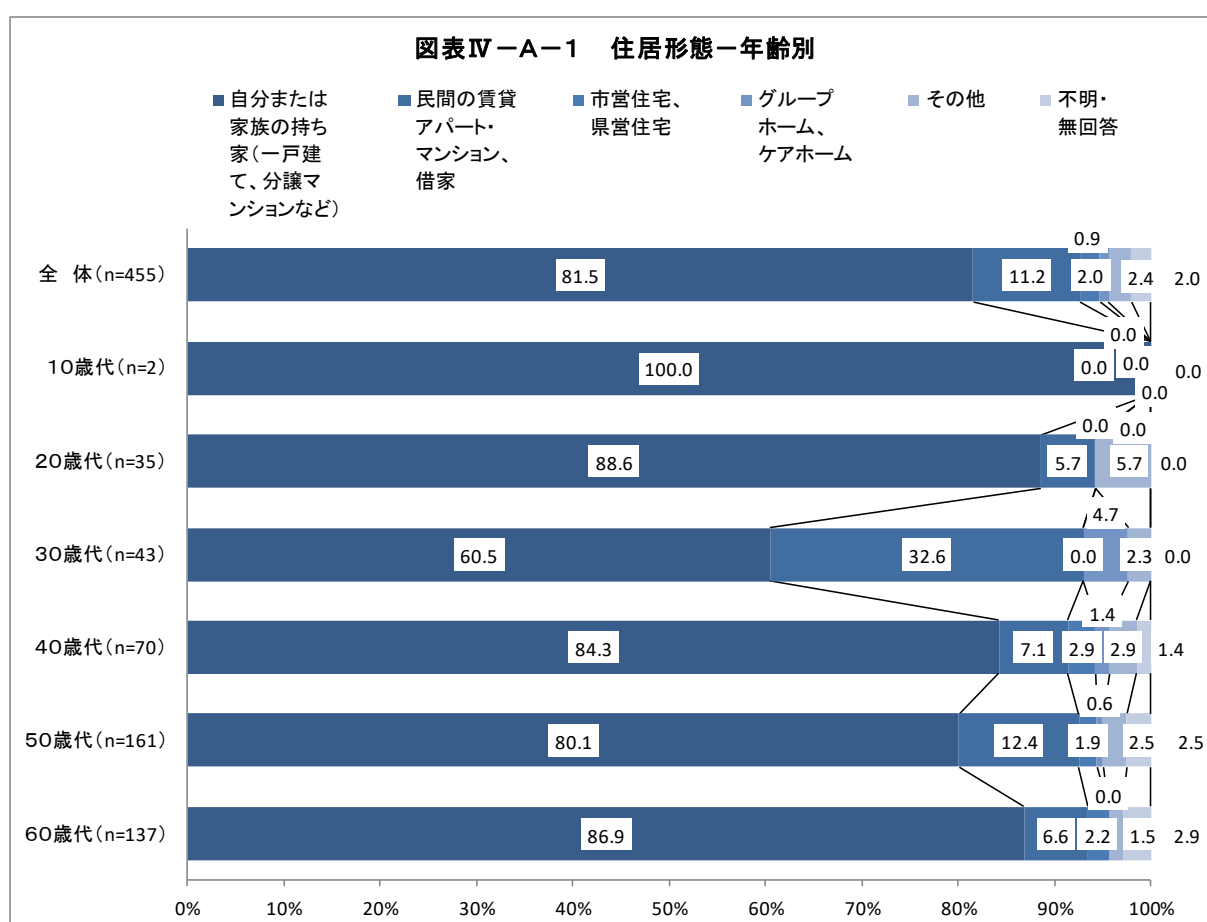
1 生活の場について

(1) 住居形態 (問4)

現在、どこで暮らしているかをたずねた。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、81.5%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、11.2%、「市営住宅、県営住宅」は、2.0%、「グループホーム」は、0.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、10歳代が100.0%、次に20歳代が88.6%である。「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、30歳代が32.6%、次に50歳代が12.4%である。

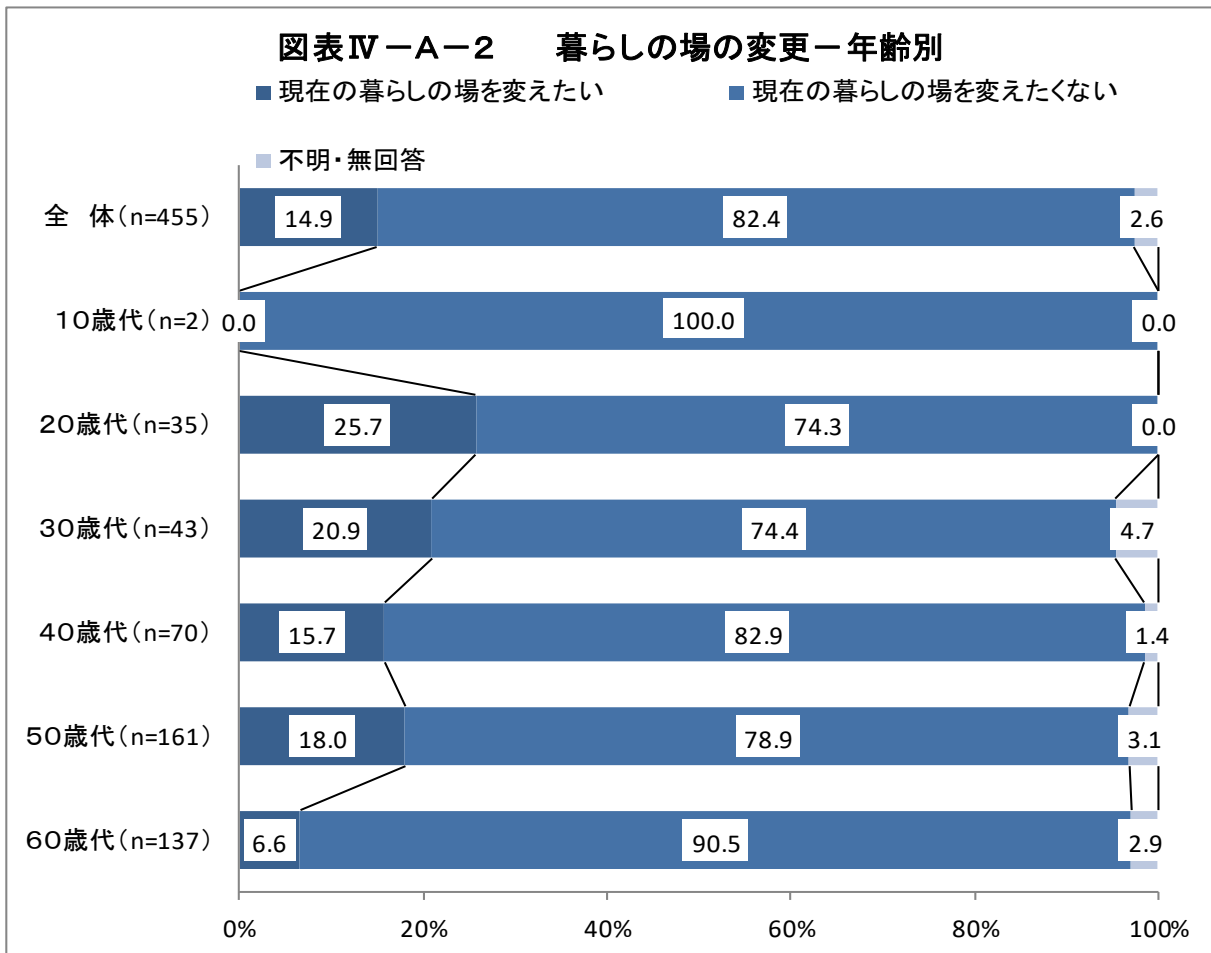


(2) 暮らしの場の変更 (問5)

現在の暮らしの場を変えたいかをたずねた。

「現在の暮らしの場を変えたくない」は、82.4%、一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、14.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の暮らしの場を変えたくない」は、10歳代が100.0%、次に60歳代が90.5%である。一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、20歳代が25.7%、次に30歳代が20.9%である。

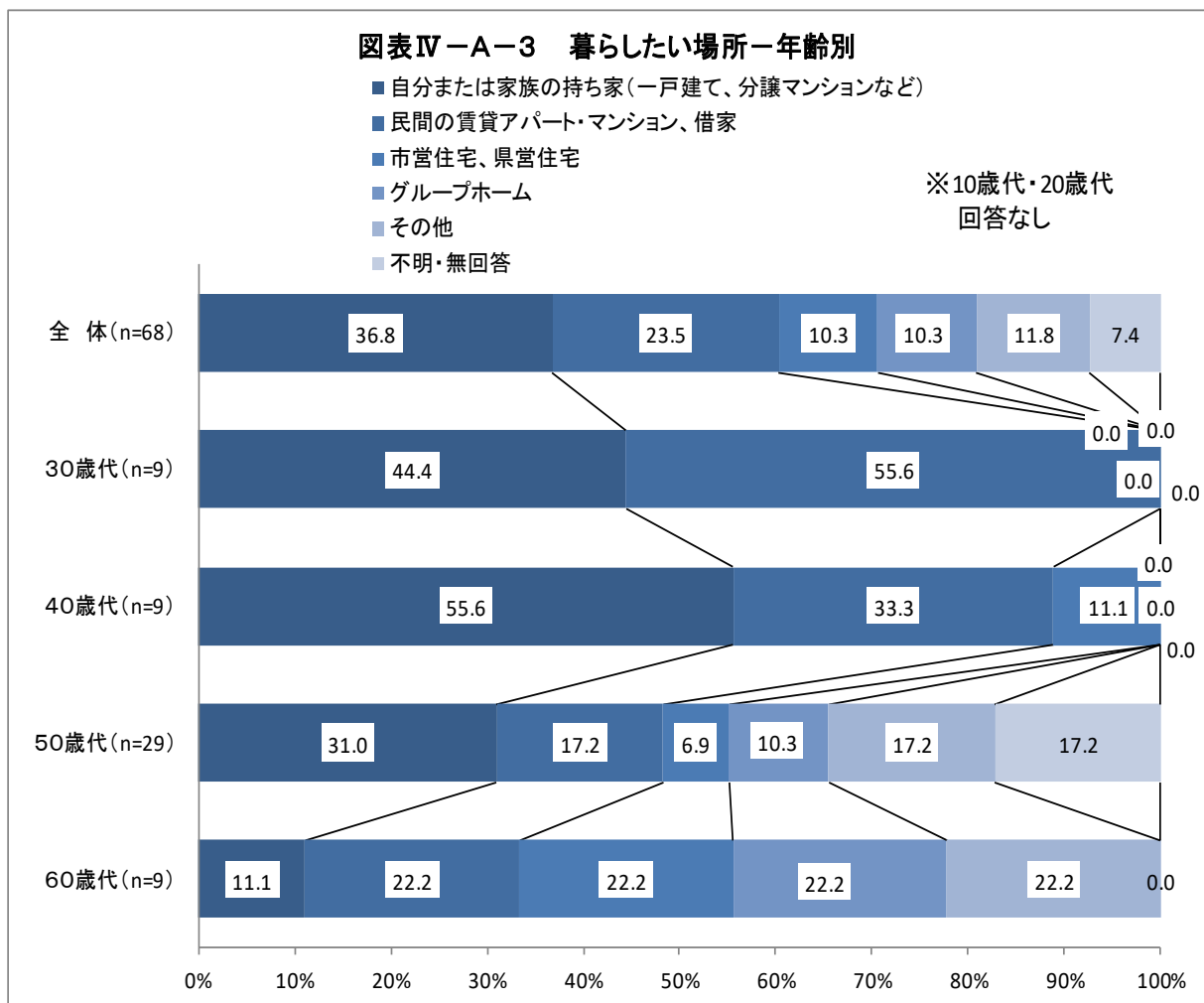


(3) 暮らしたい場所 (問6)

問5で「現在の暮らしの場を変えたい」と回答した人に、今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「自分または家族の持ち家」は、36.8%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、23.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家」は、40歳代が55.6%、次に30歳代が44.4%である。「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、30歳代が55.6%、次に40歳代が33.3%である。

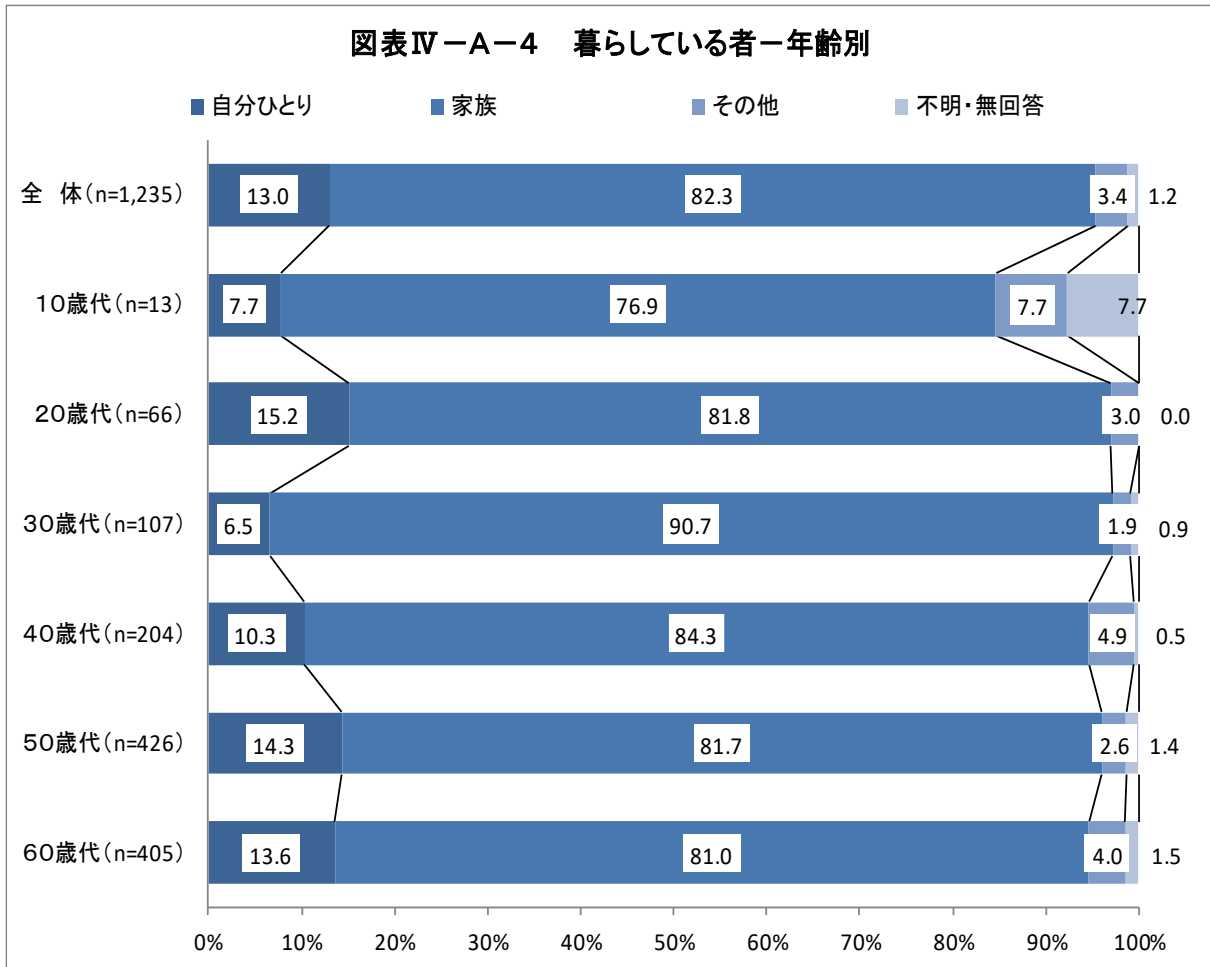


(4) 世帯構成 (問7)

現在、だれと暮らしているかをたずねた。

「家族」は、82.3%、「自分ひとり」は、13.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「家族」は、30歳代が90.7%、次に40歳代が84.3%である。一方「自分ひとり」は、20歳代が15.2%、次に50歳代が14.3%である。

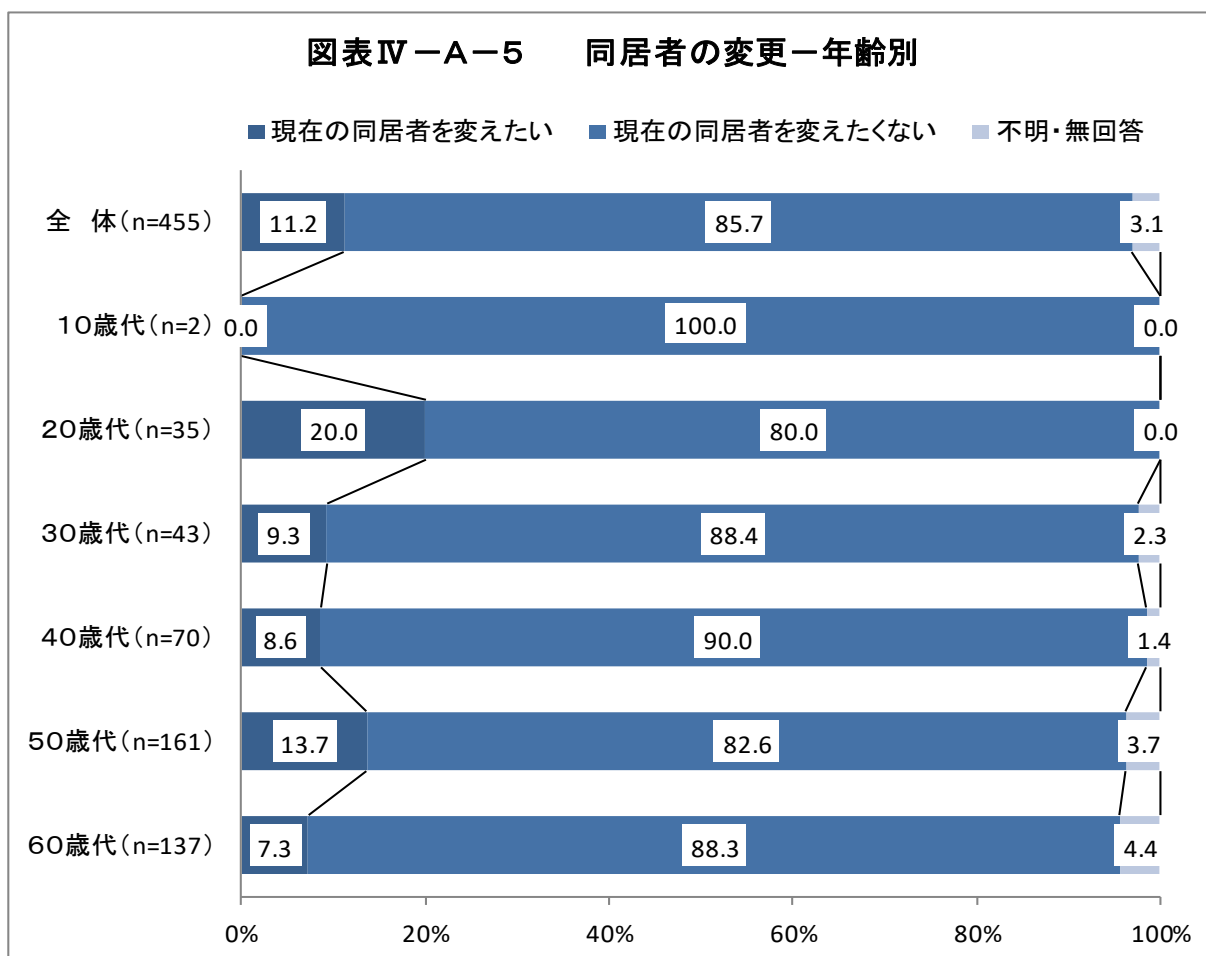


(5) 同居者の変更 (問8)

現在の同居者を変えたいかをたずねた。

「現在の同居者を変えたくない」は、85.7%、「現在の同居者を変えたい」は、11.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の同居者を変えたくない」は、10歳代が100.0%、次に40歳代が90.0%である。一方「現在の同居者を変えたい」は、20歳代が20.0%、次に50歳代が13.7%である。

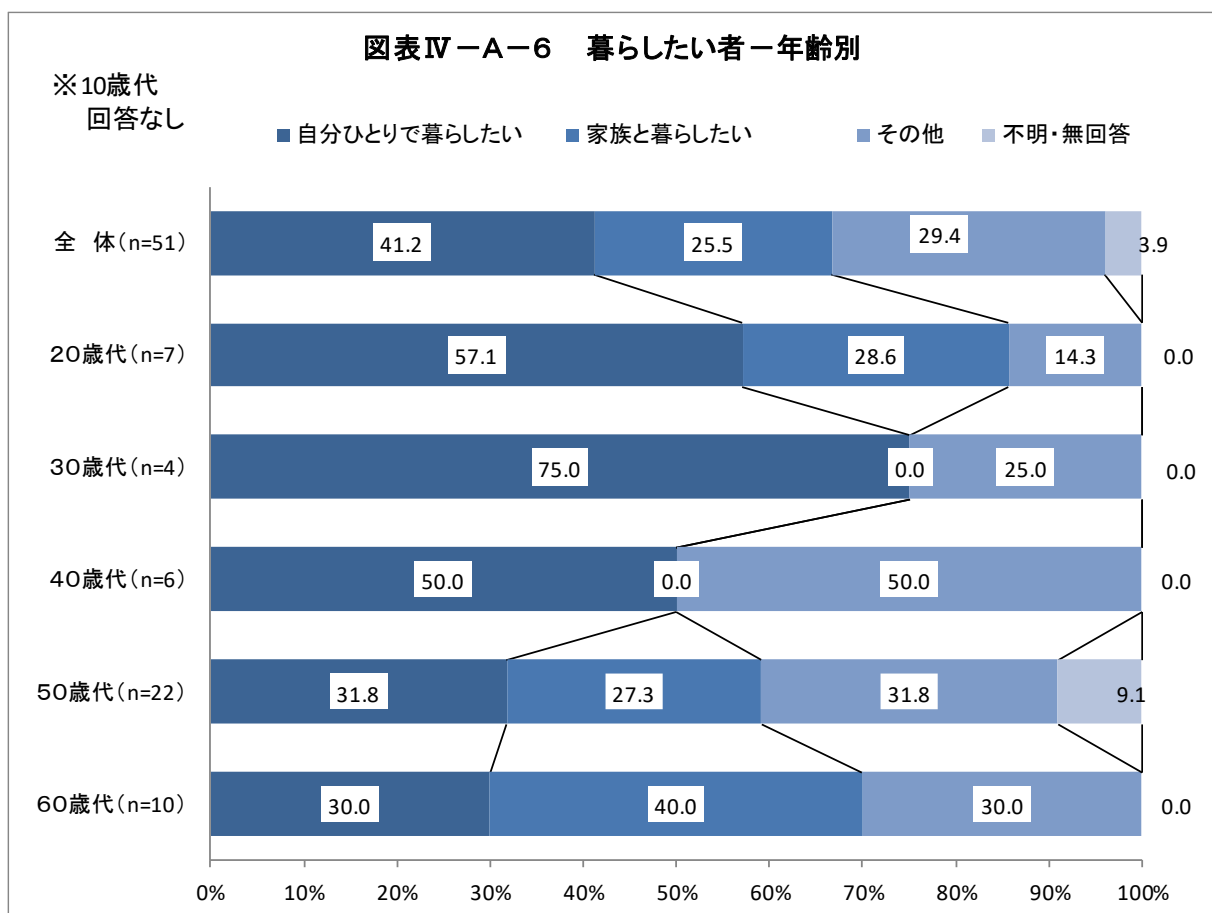


(6) 暮らしたい者 (問9)

問8で「現在の同居者を変えたい」と回答した人に、今後、だれと暮らしたいかをたずねた。

「自分ひとりで暮らしたい」は、41.2%、「その他」は、29.4%、「家族と暮らしたい」は、25.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分ひとりで暮らしたい」は、30歳代が75.0%、次に20歳代が57.1%である。一方「家族と暮らしたい」は、60歳代が40.0%、次に20歳代が28.6%である。

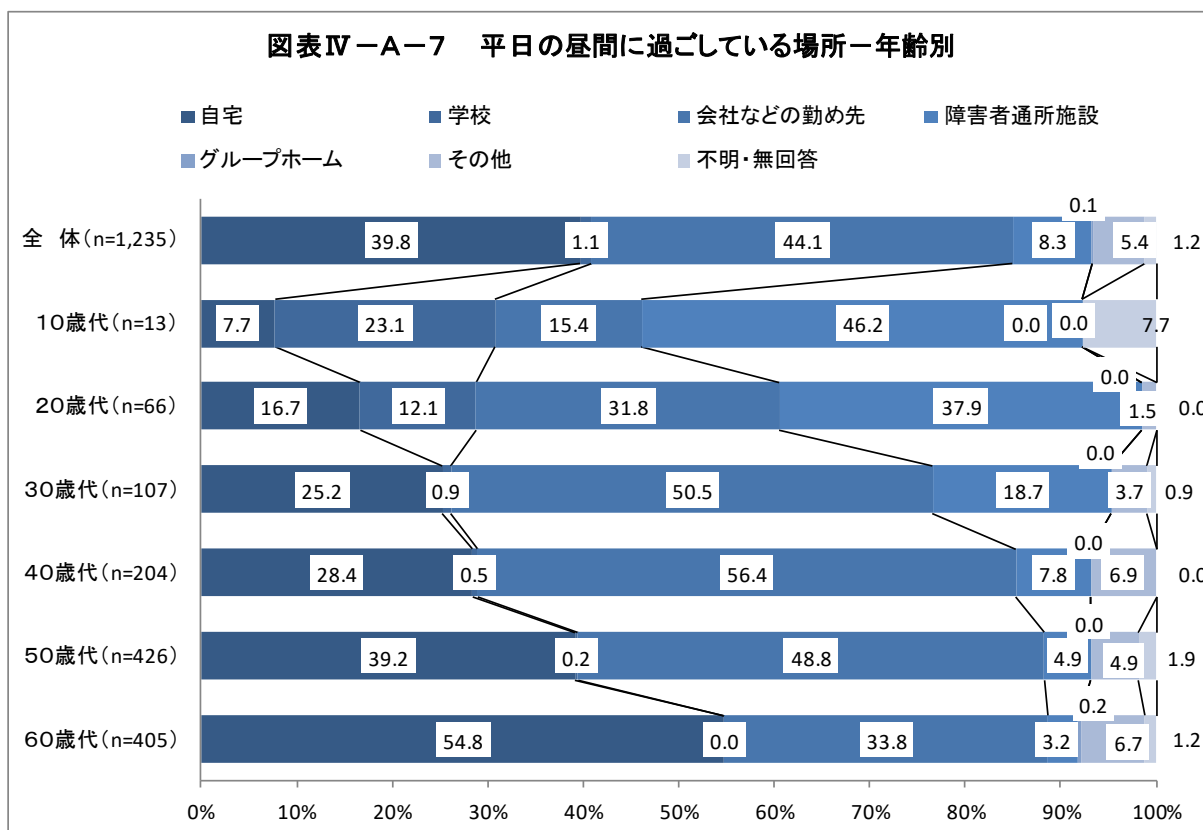


(7) 平日の昼間に過ごしている場所 (問10)

現在、平日の昼間に主にどこで過ごしているかをたずねた。

「会社などの勤め先」は、44.1%、「自宅」は、39.8%、「障害者通所施設」は、8.3%である。

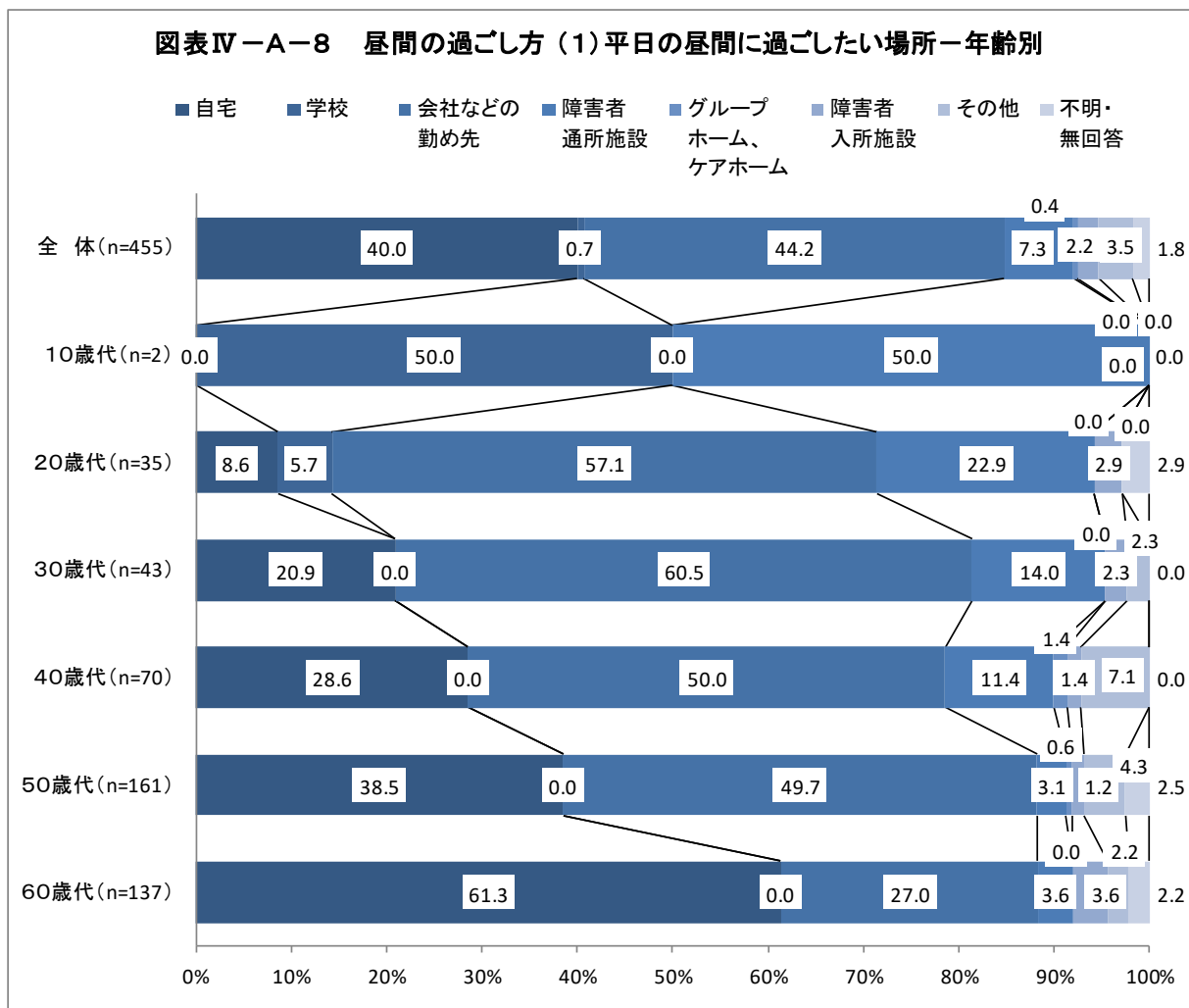
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社などの勤め先」は、40歳代が56.4%、次に30歳代が50.5%である。30歳代から50歳代の割合が高い。「自宅」は、60歳代が54.8%、次に50歳代が39.2%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害者通所施設」は、10歳代が46.2%、次に20歳代が37.9%である。年齢が下がるごとに割合が高い。



(8) 昼間の過ごし方(1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問 1 1 (1))

今後の昼間の過ごし方について、平日の昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。「会社などの勤め先」は、44.2%、「自宅」は、40.0%、「障害者通所施設」は、7.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社などの勤め先」は、30歳代が60.5%、次に20歳代が57.1%である。20歳代から50歳代の割合が高い。「自宅」は、60歳代が61.3%、次に50歳代が38.5%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害者通所施設」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が22.9%である。年齢が下がるごとに割合が高い。



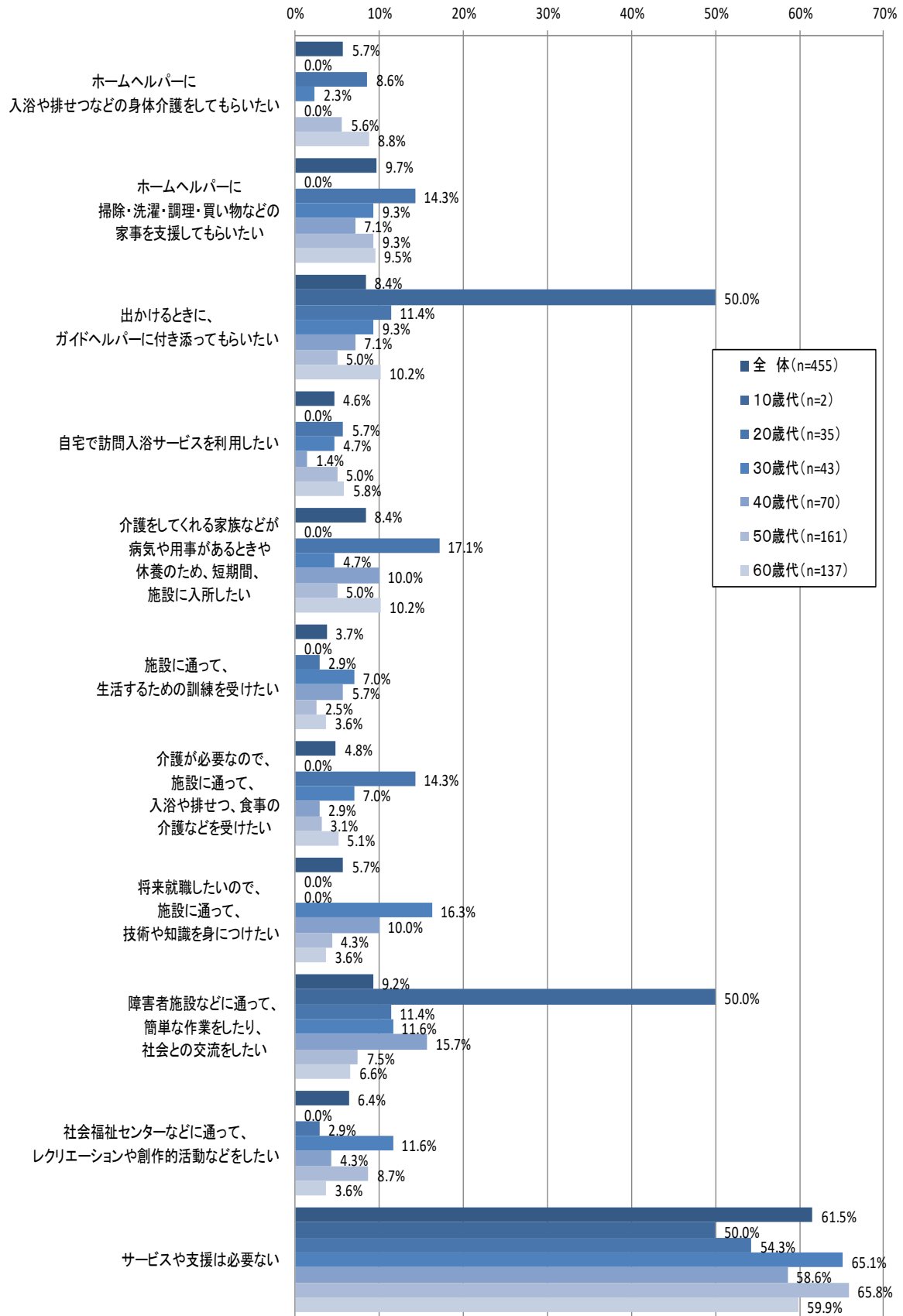
(8) 昼間の過ごし方-(2) 昼間に利用したいサービスや支援 (問 1 1 (2))

今後、昼間どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「サービスや支援は必要ない」は、61.5%、以降は 10%台以下となっている。「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、9.7%、「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、9.2%、「出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい」と「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、8.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「サービスや支援は必要ない」は、50歳代が 65.8%、次に 30歳代が 65.1%である。全年代で 50%以上と高い。「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、20歳代が 14.3%である。「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、10歳代が 50.0%、次に 40歳代が 15.7%である。「出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい」は、10歳代が 50.0%である。

図表Ⅳ-A-9 昼間の過ごし方(2) 昼間に利用したいサービスや支援一年齢別
(複数回答)



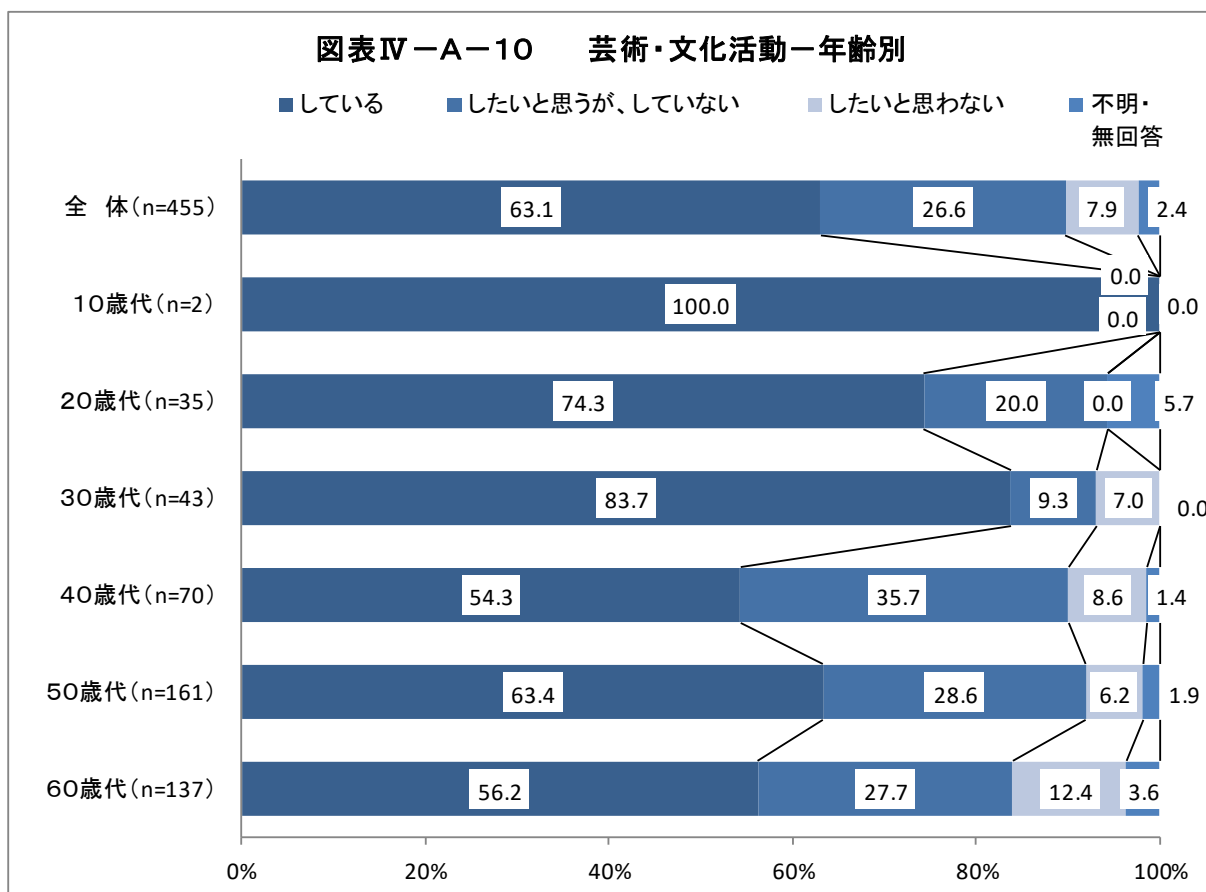
2 文化・スポーツについて

(1) 芸術・文化活動の状況（問12）

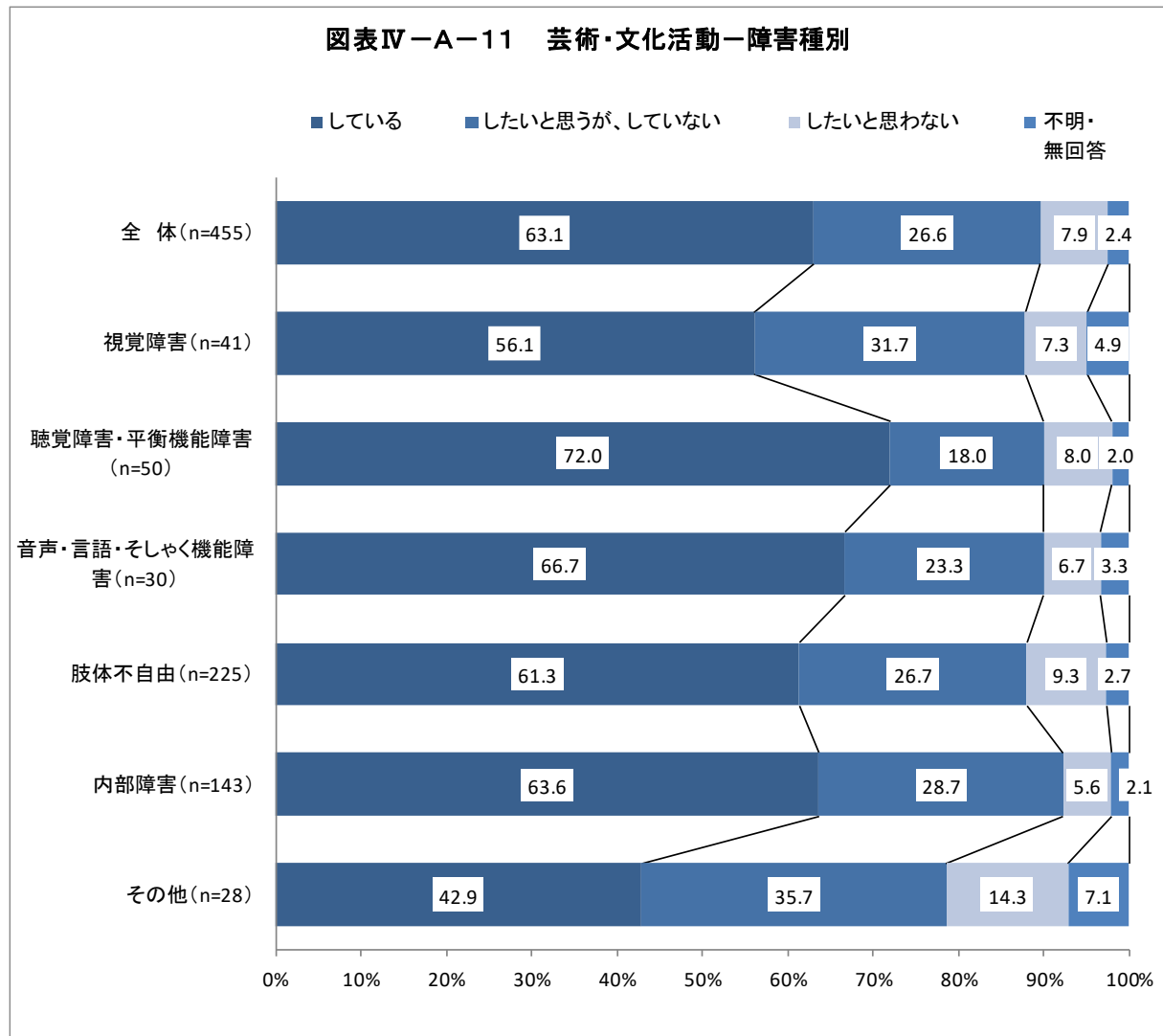
現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

「している」は、63.1%、「したいと思うが、していない」は、26.6%、「したいと思わない」は、7.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、10歳代が100.0%、次に30歳代が83.7%である。「したいと思うが、していない」は、40歳代が35.7%、次に50歳代が28.6%である。40歳代から60歳代の割合が高い。「したいと思わない」は、60歳代が12.4%、次に40歳代が8.6%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、聴覚障害・平衡機能障害が72.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が66.7%である。「したいと思うが、していない」は、そのほか35.7%、次に視覚障害が31.7%である。「したいと思わない」は、そのほか14.3%、次に肢体不自由が9.3%である。

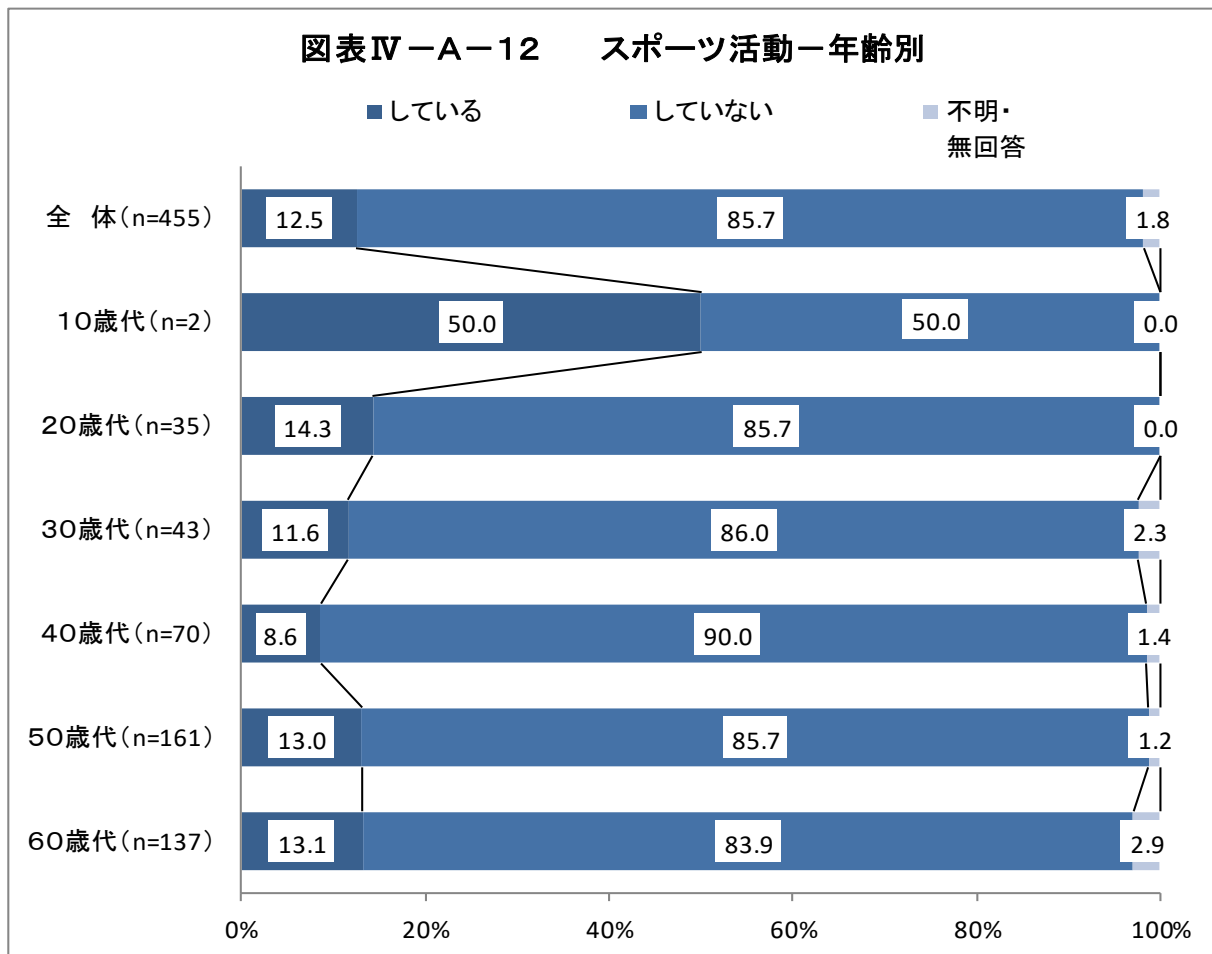


(2) スポーツ活動の実施 (問 13)

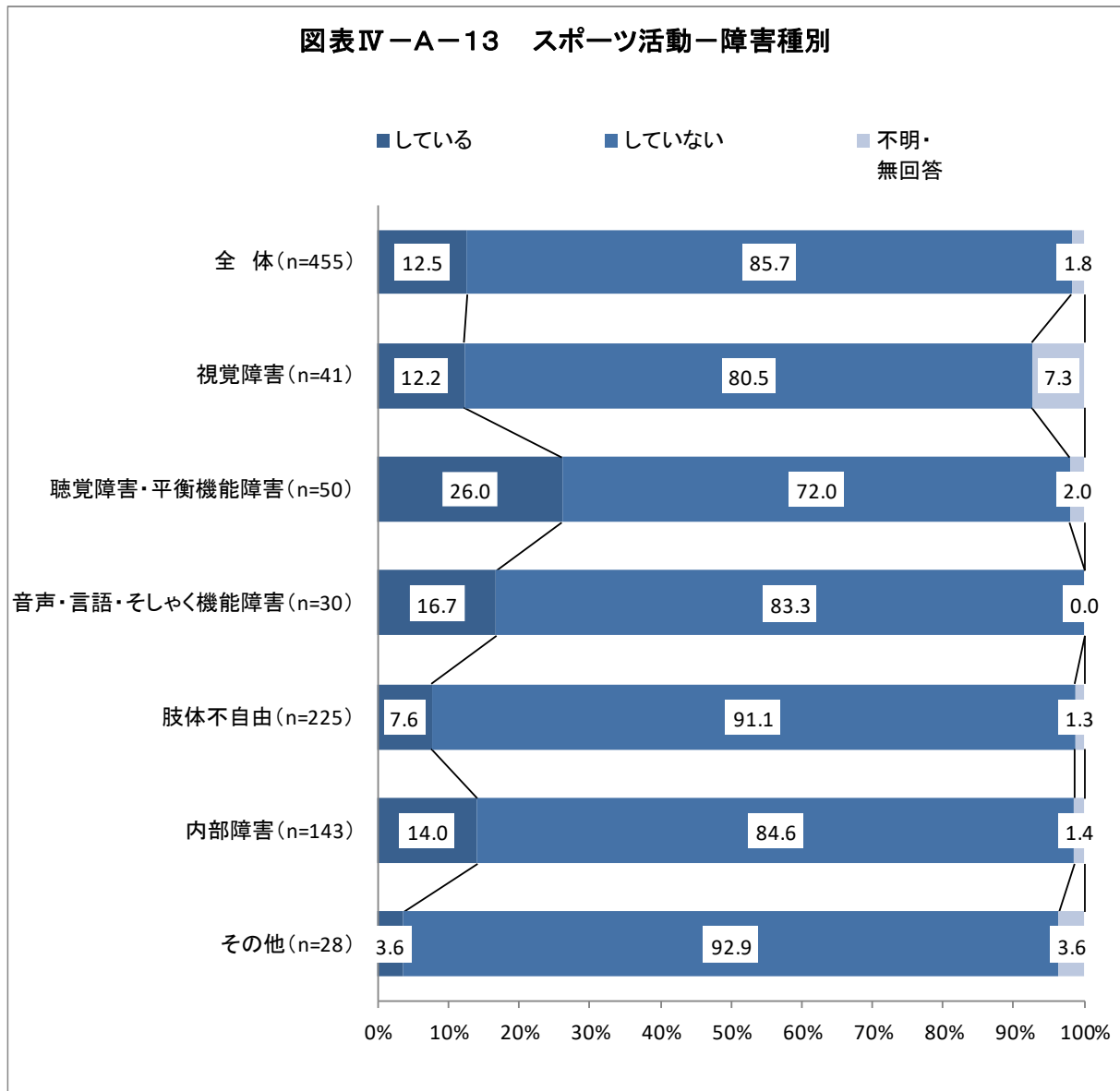
現在、スポーツをしているかをたずねた。

「している」は、12.5%、「していない」は、85.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が14.3%である。「していない」は、40歳代が90.0%、次に30歳代が86.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、聴覚障害・平衡機能障害が26.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%である。「していない」は、その他が92.9%、次に肢体不自由が91.1%である。

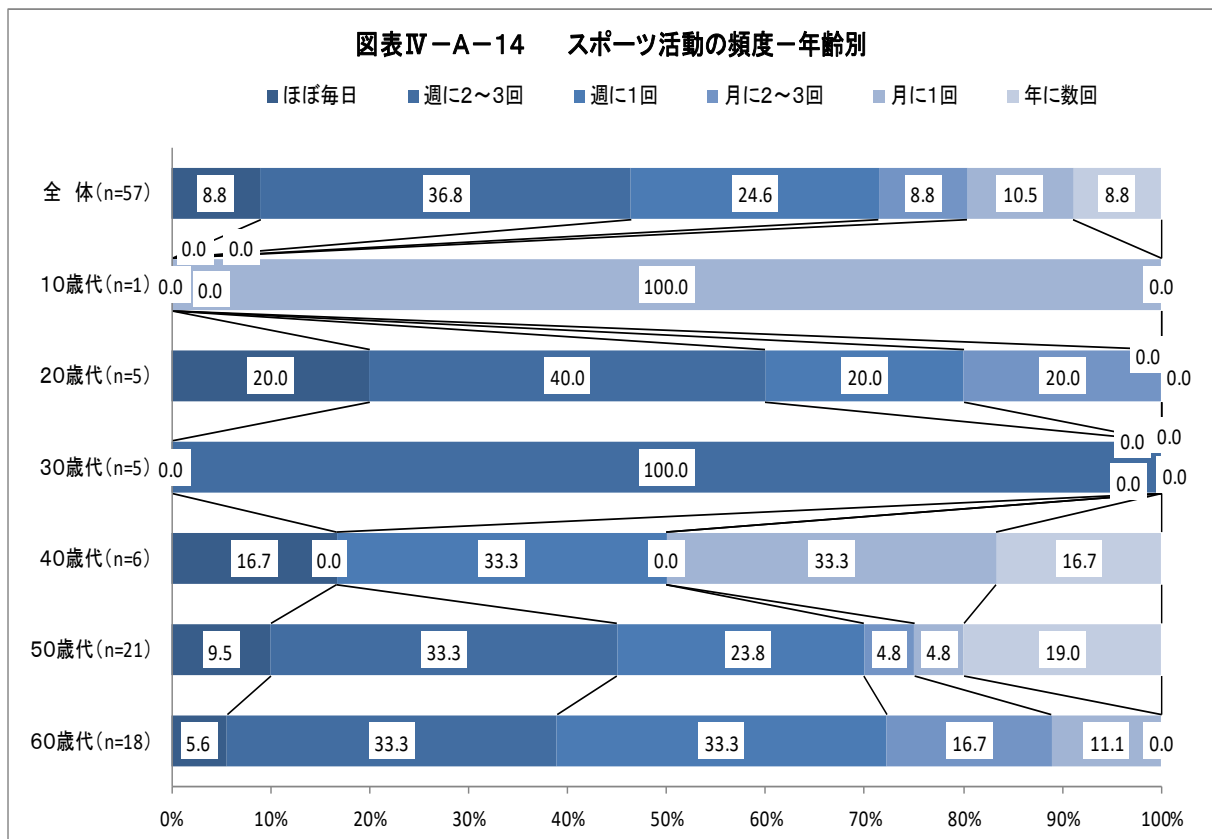


（3）スポーツ活動の頻度（問14）

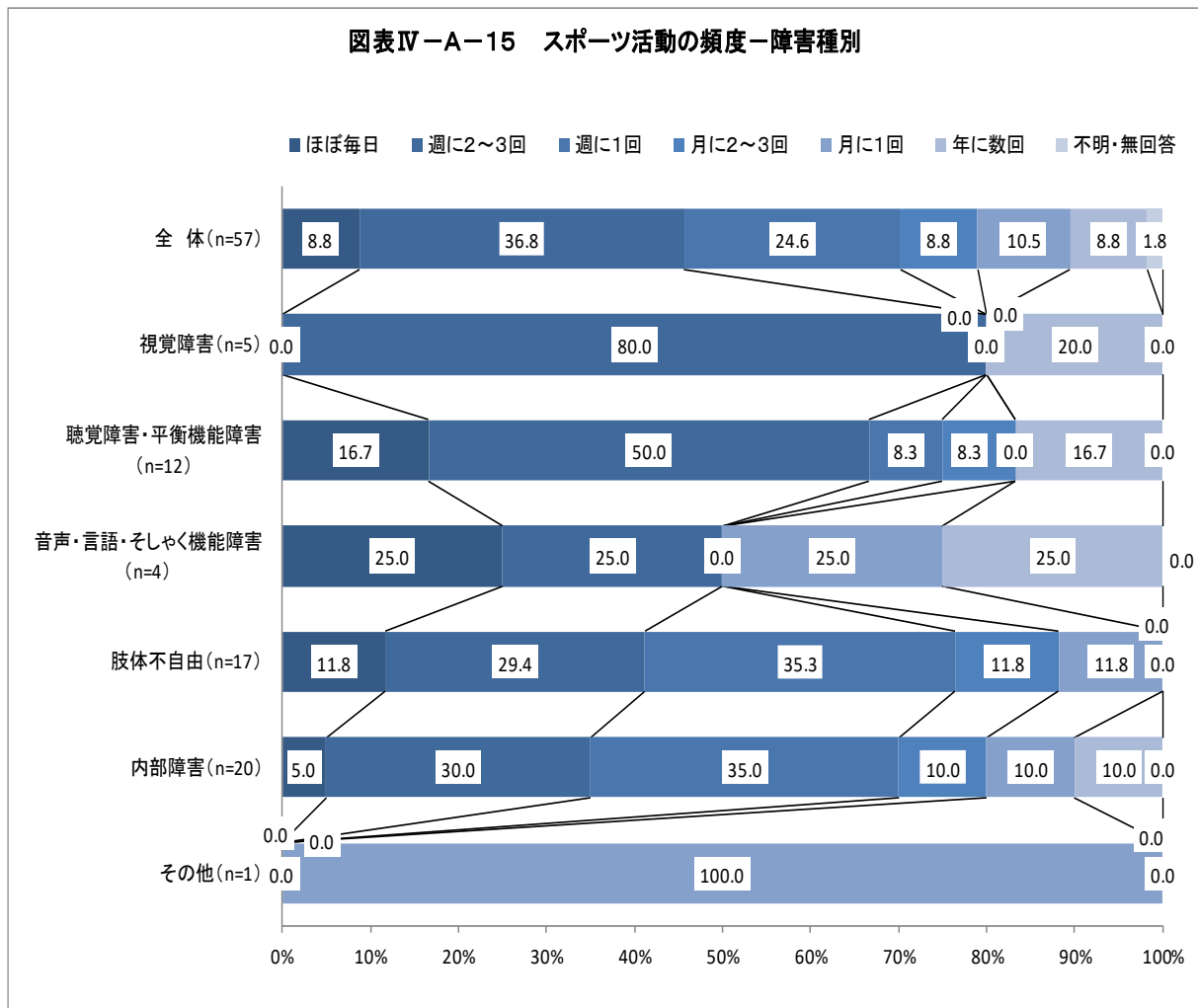
問13で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「週に2～3回」は、36.8%、「週に1回」は、24.6%、「月に1回」は、10.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「週に2～3回」は、30歳代が100.0%、次に20歳代が40.0%である。「週に1回」は、40歳代と60歳代が33.3%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「週に2～3回」は、視覚障害が80.0%、次に聴覚障害・平衡機能障害が50.0%である。「週に1回」は、肢体不自由が35.3%、次に内部障害が35.0%である。

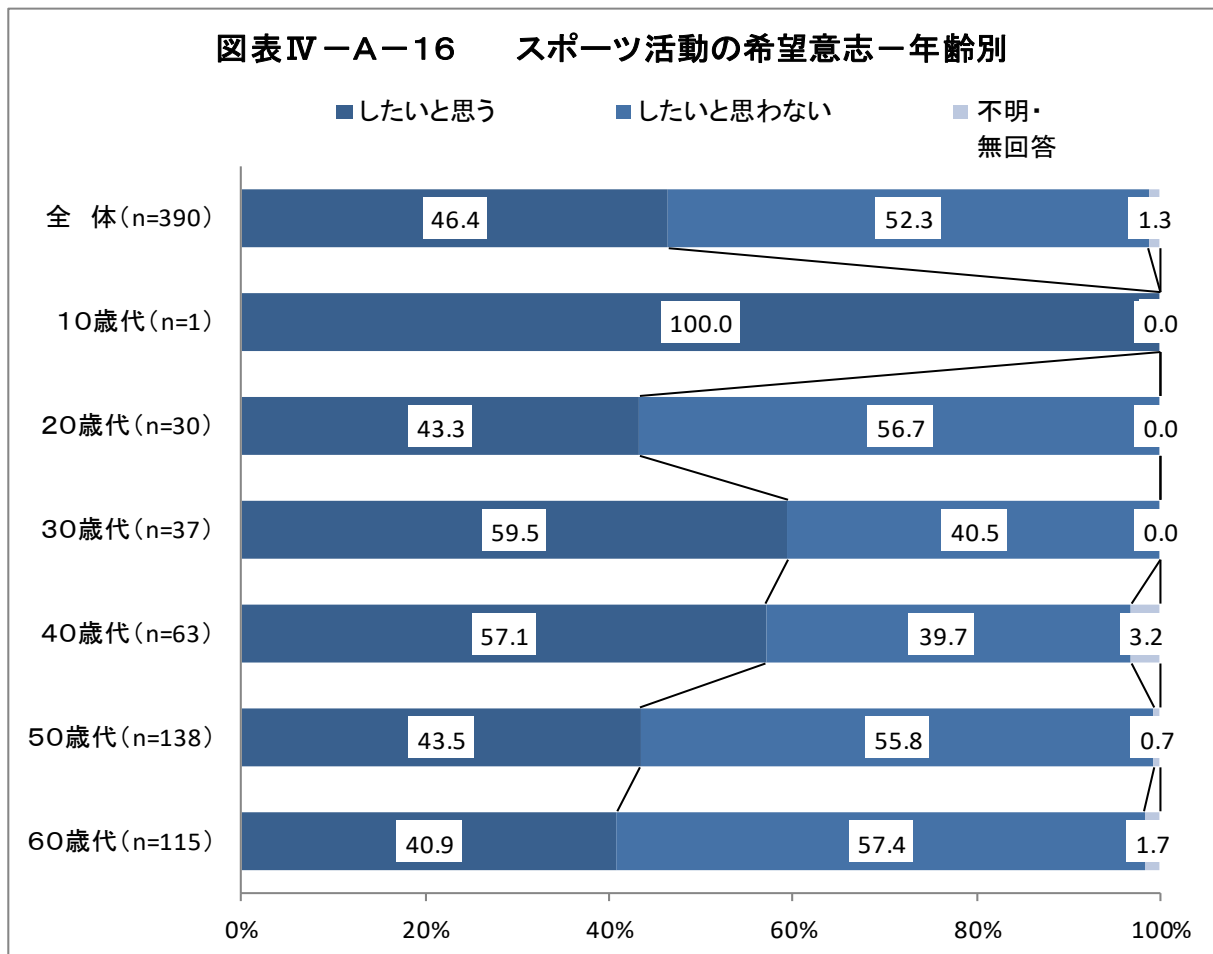


(4) スポーツ活動をしたい希望意志（問15）

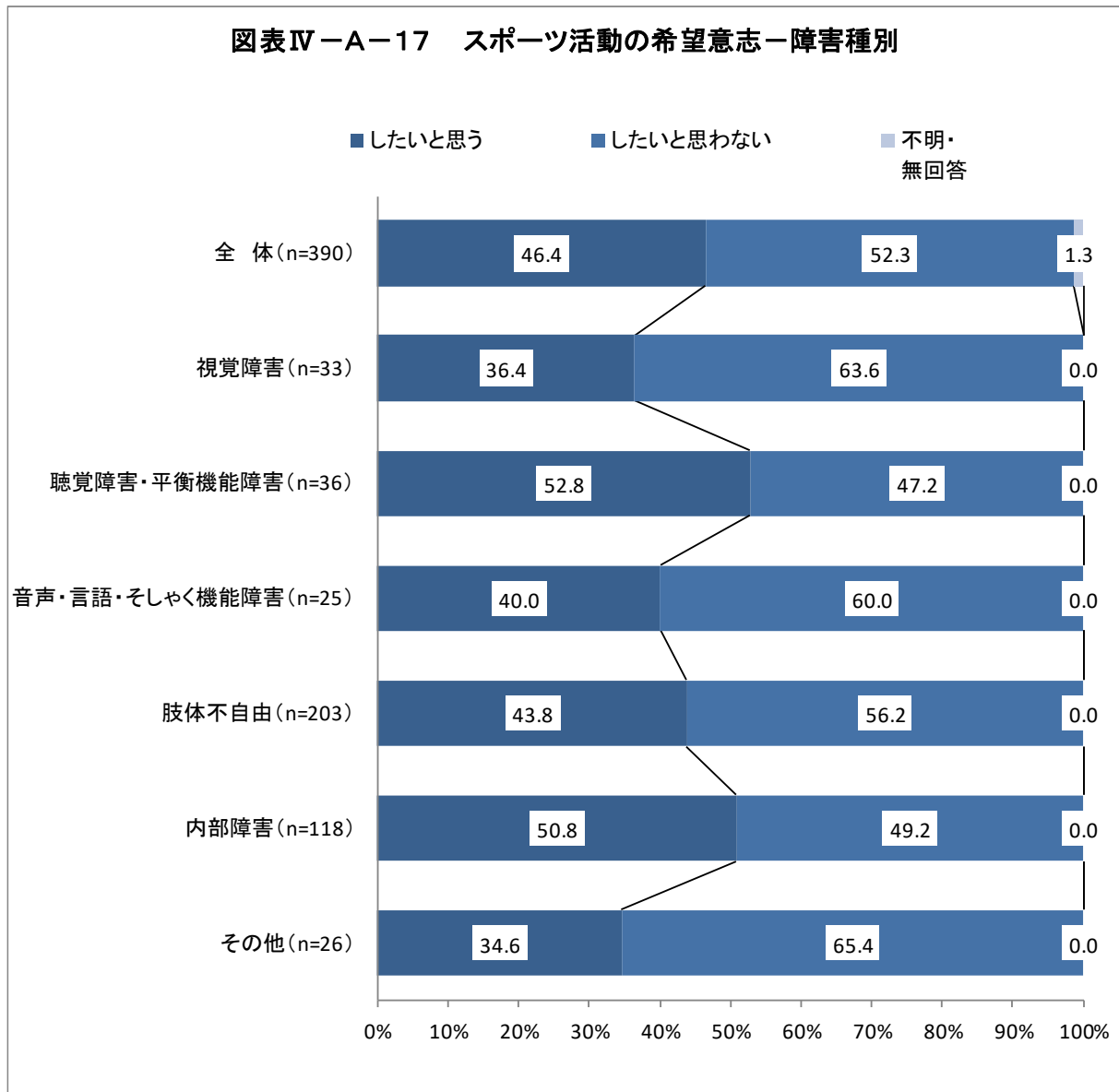
問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、46.4%、「したいと思わない」は、52.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、10歳代が100.0%、次に30歳代が59.5%である。一方「したいと思わない」は、60歳代が57.4%、次に20歳代が56.7%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、聴覚障害・平衡機能障害が52.8%、次に内部障害が50.8%である。一方「したいと思わない」は、そのほか65.4%、次に視覚障害が63.6%である。



3 就労について

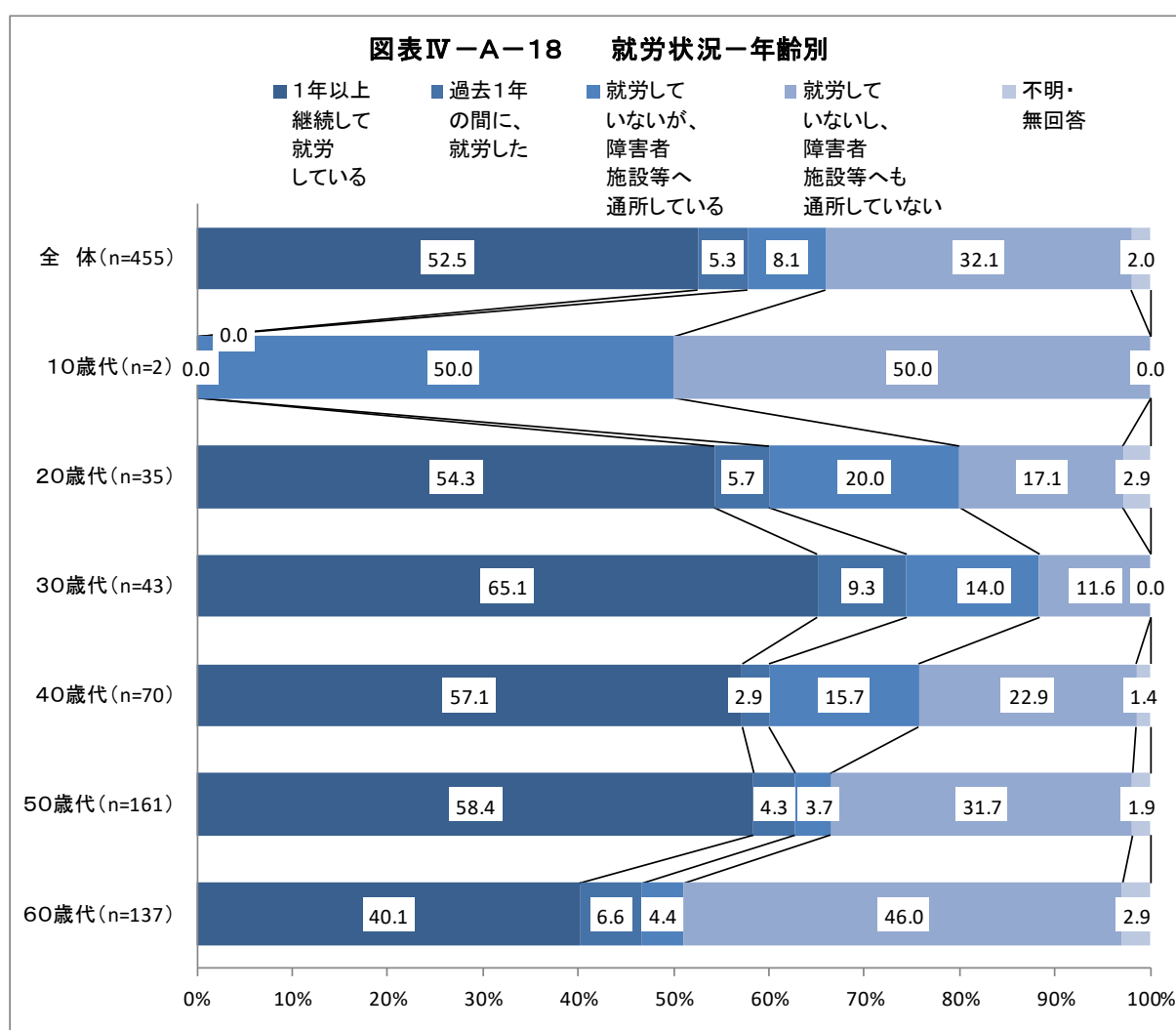
(1) 就労状況（問16）

現在、就労をしているかをたずねた。

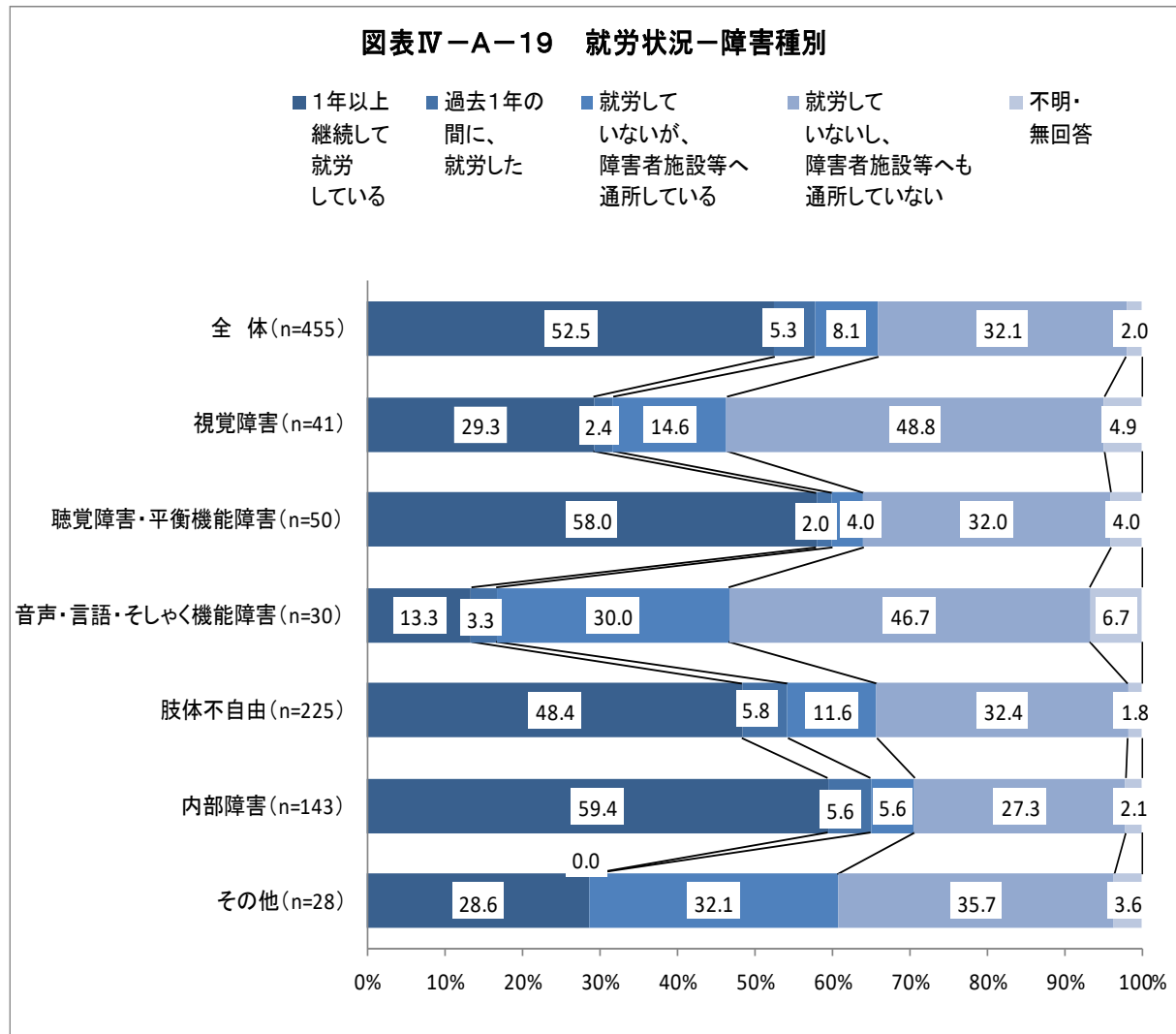
「1年以上継続して就労している」は、52.5%、「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、32.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「1年以上継続して就労している」は、30歳代が65.1%、次に50歳代が58.4%である。一方「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、10歳代が50.0%、次に60歳代が46.0%である。

「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が20.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「1年以上継続して就労している」は、内部障害が59.4%、次に聴覚障害・平衡機能障害が58.0%である。一方「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、視覚障害が48.8%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が46.7%である。



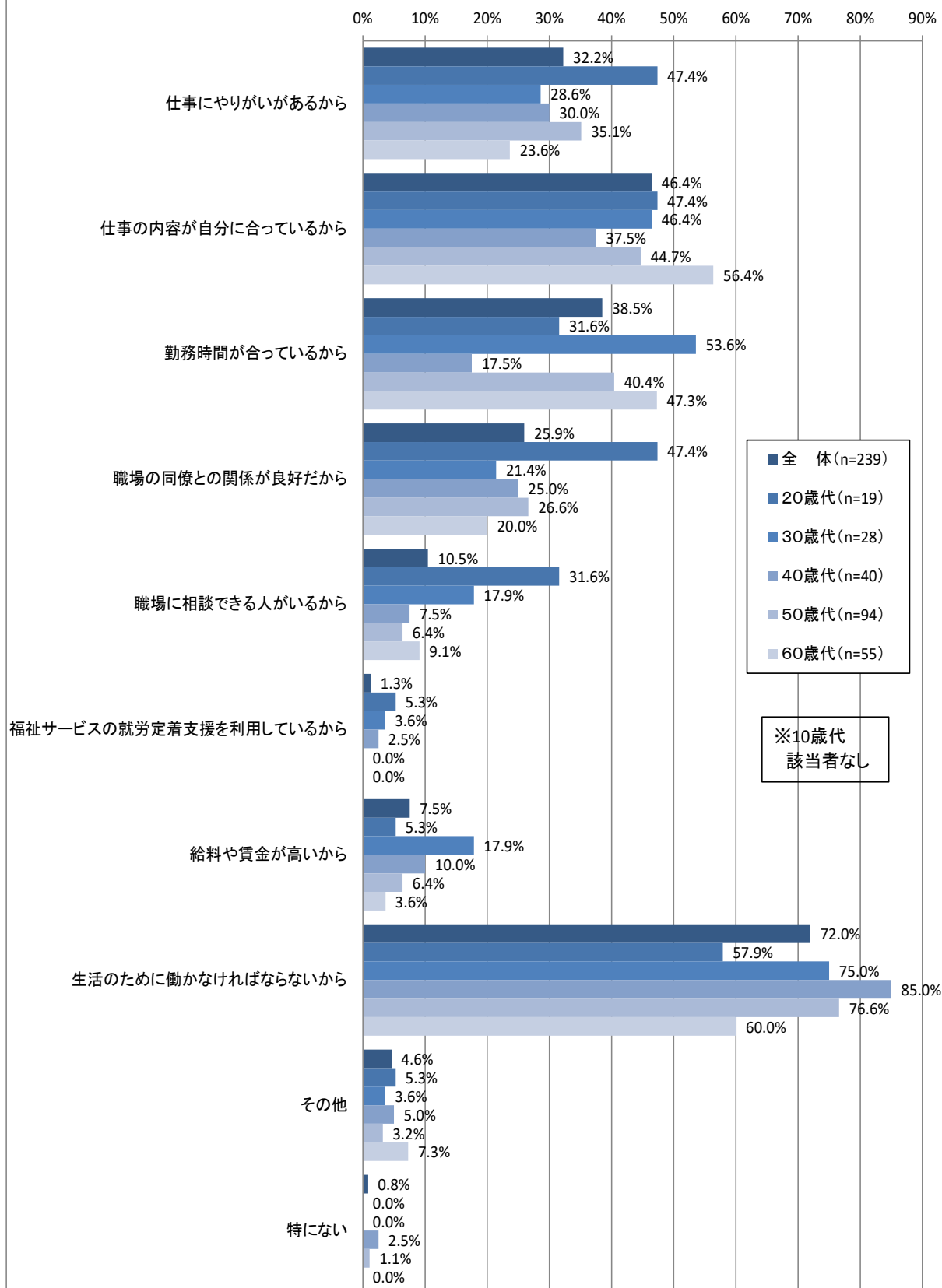
(2) 就労継続できる理由 (問 17)

問 16 で「1年以上継続して就労している」と回答した人に、就労し続けている、または、続けることができている理由を複数回答でたずねた。

「生活のために働かなければならないから」は、72.0%、「仕事の内容が自分に合っているから」は、46.4%、「勤務時間が合っているから」は、38.5%、「仕事にやりがいがあるから」は、32.2%、「職場の同僚との関係が良好だから」は、25.9%である。

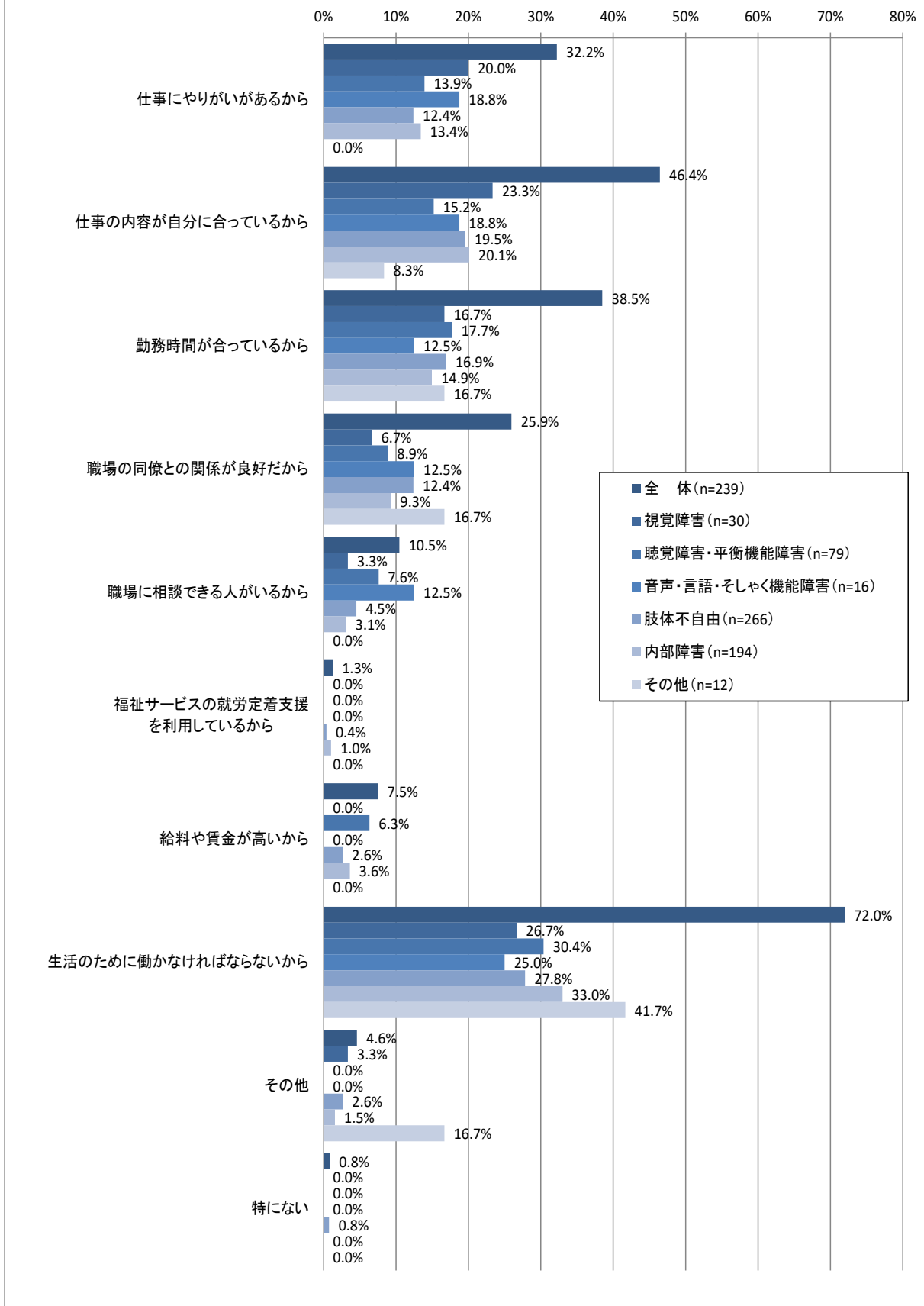
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「生活のために働かなければならないから」は、40歳代が85.0%、次に50歳代が76.6%である。30歳代から50歳代の割合が高い。「仕事の内容が自分に合っているから」は、60歳代が56.4%、次に20歳代が47.4%である。「勤務時間が合っているから」は、30歳代が53.6%、次に60歳代が47.3%である。「仕事にやりがいがあるから」は、20歳代が47.4%、次に50歳代が35.1%である。「職場の同僚との関係が良好だから」は、20歳代が47.4%、次に50歳代が26.6%である。

図表Ⅳ-A-20 就労継続できる理由—年齢別(複数回答)



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見ると、「生活のために働かなければならないから」は、その他が 41.7%、次に内部障害が 33.0%である。「仕事の内容が自分に合っているから」は、視覚障害が 23.3%、次に内部障害が 20.1%である。「勤務時間が合っているから」は、障害種別であまり差は少ない。「仕事にやりがいがあるから」は、視覚障害が 20.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が 18.8%である。

図表Ⅳ-A-21 就労継続できる理由—障害種別(複数回答)

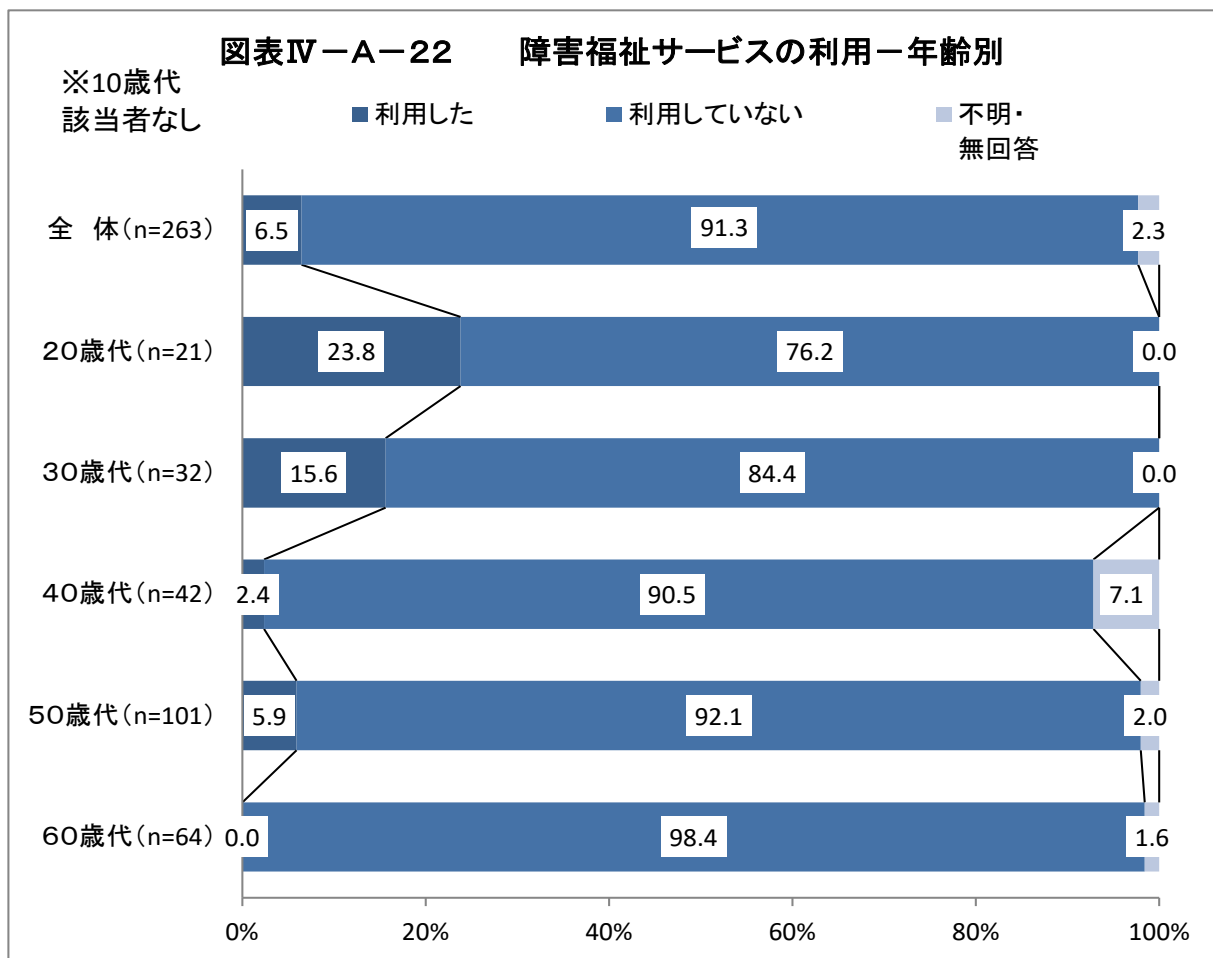


(3) 障害福祉サービスの利用（問18）

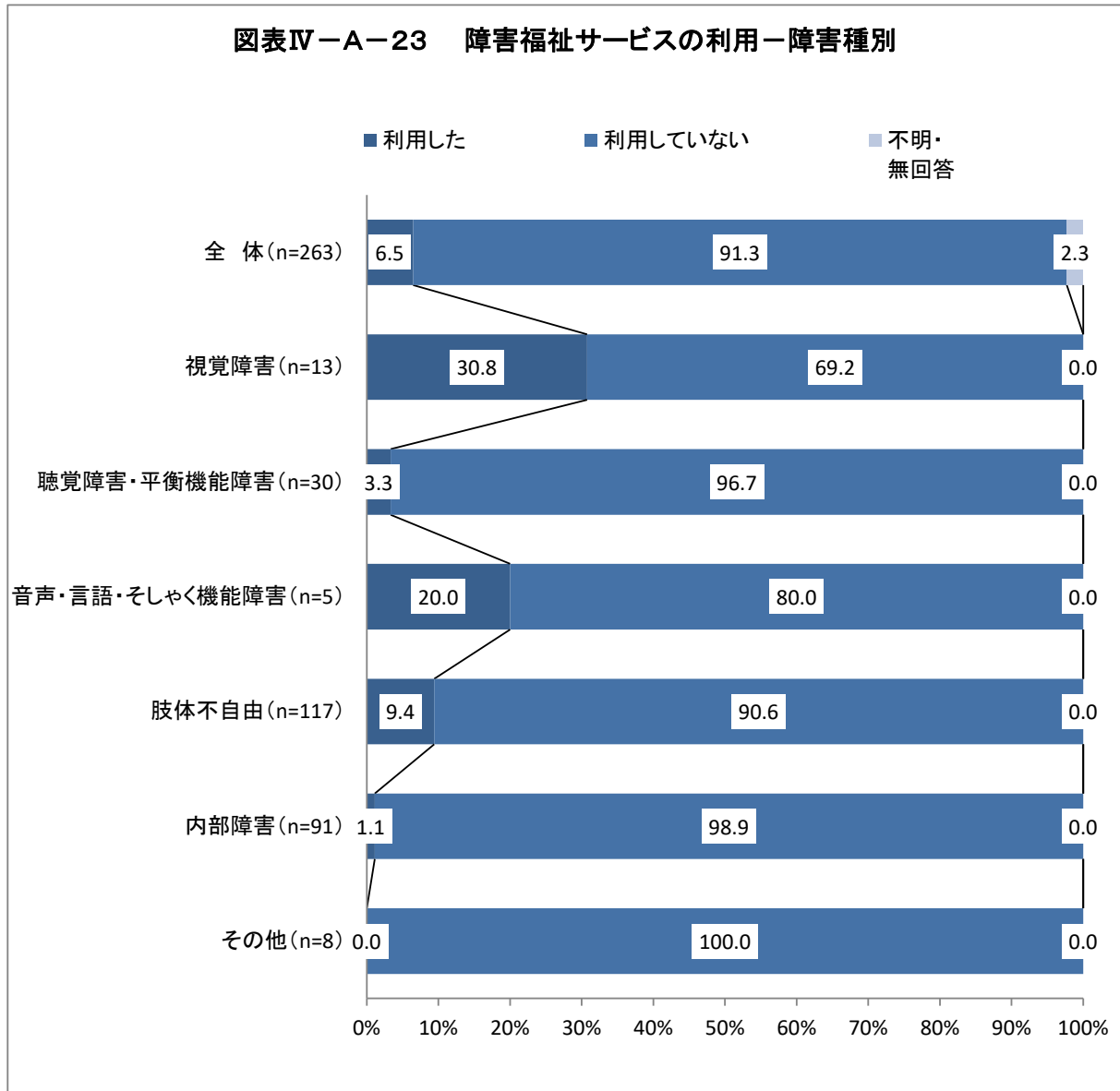
問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」回答した人に、就労するために障害者施設等で行う職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

「利用していない」は、91.3%、「利用した」は、6.5%である。

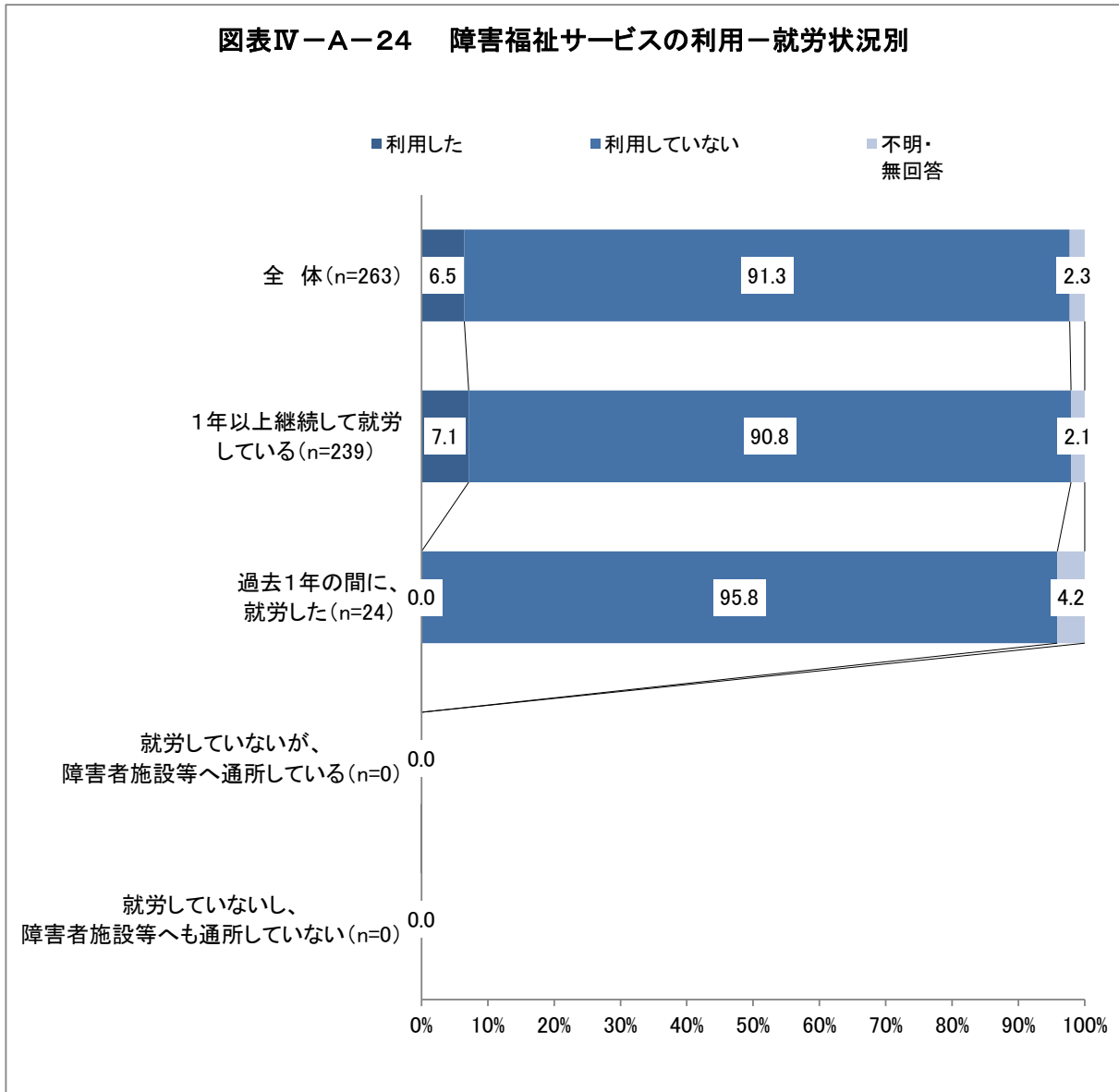
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用していない」は、60歳代が98.4%、次に50歳代が92.1%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「利用した」は、20歳代が23.8%、次に30歳代が15.6%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用していない」は、そのほかが 100.0%、次に内部障害が 98.9%、聴覚障害・平衡機能障害が 96.7%である。「利用した」は、視覚障害が 30.8%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が 20.0%である。



【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用していない」は、「過去1年の間に、就労した」が95.8%、次に「1年以上継続して就労している」が90.8%である。

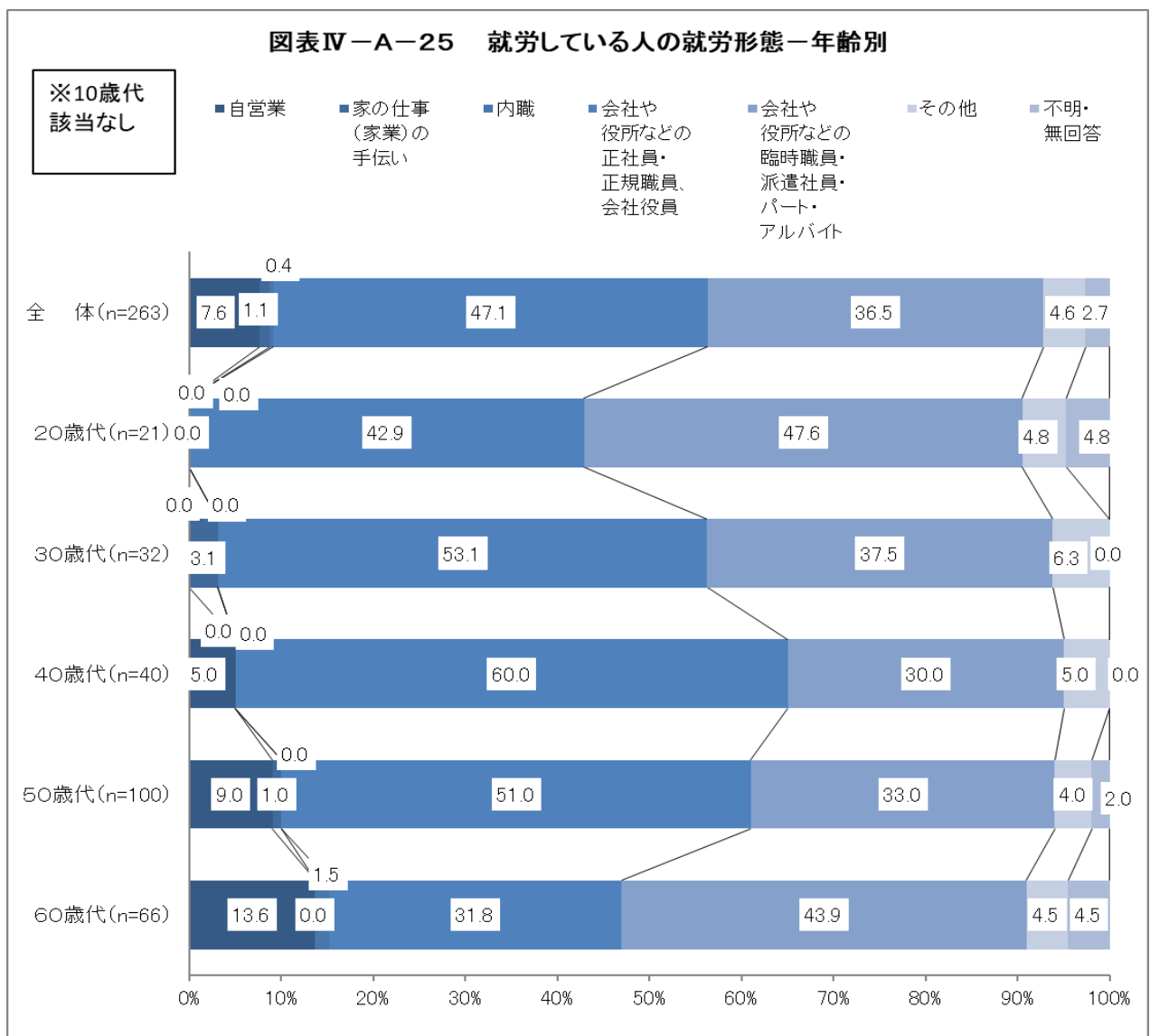


(4) 就労している人の就労形態 (問19)

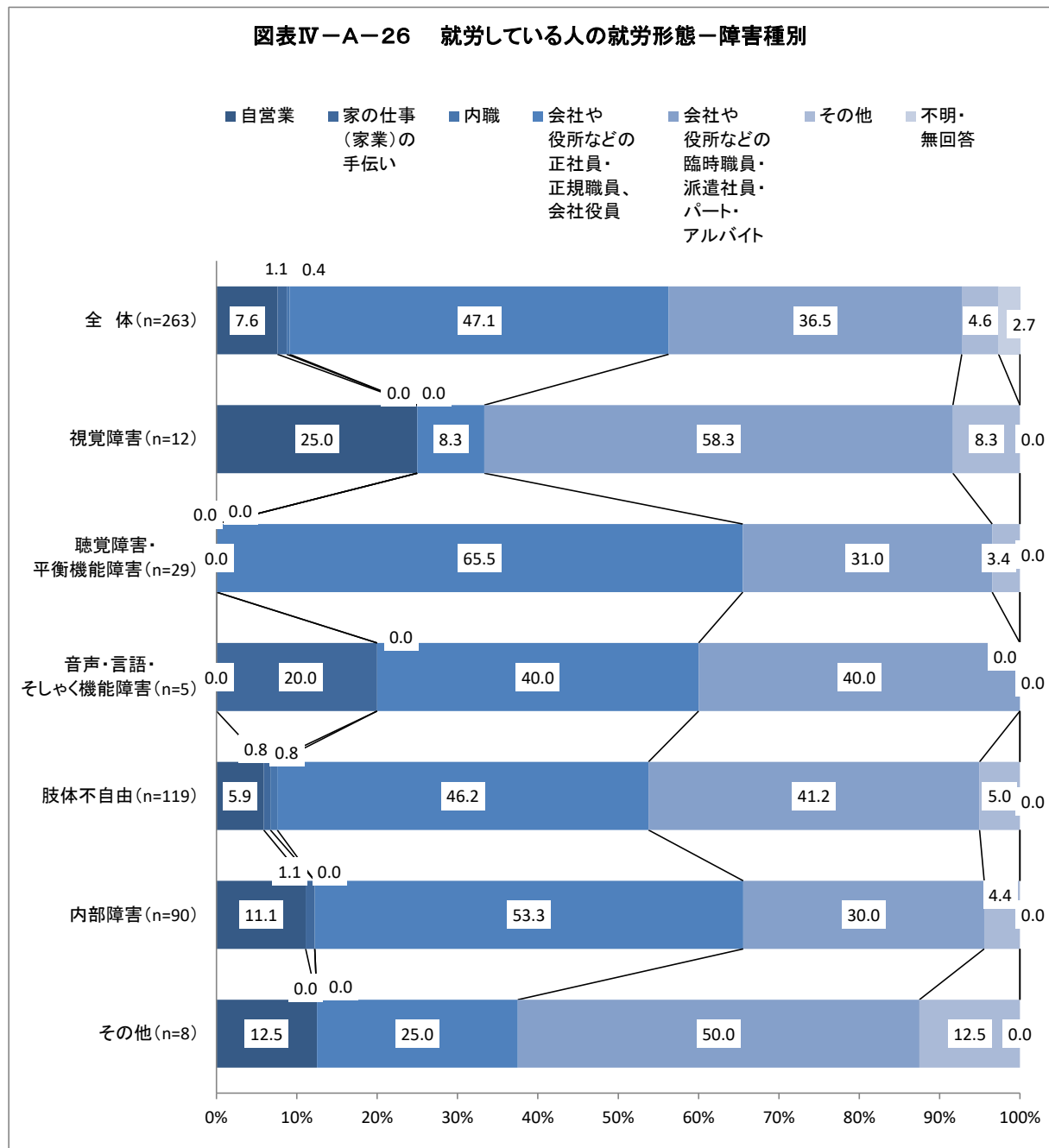
問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、どのような仕事をしているかをたずねた。

「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、47.1%、「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、36.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、40歳代が60.0%、次に30歳代が53.1%である。30歳代から50歳代の割合が高い。「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、20歳代が47.6%、次に60歳代が43.9%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、聴覚障害・平衡機能障害が65.5%、次に内部障害が53.3%である。「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、視覚障害が58.3%、次にそのほかが50.0%である。「自営業」は、視覚障害が25.0%である。「家の仕事（家業）の手伝い」は、音声・言語・そしゃく機能障害が20.0%である。

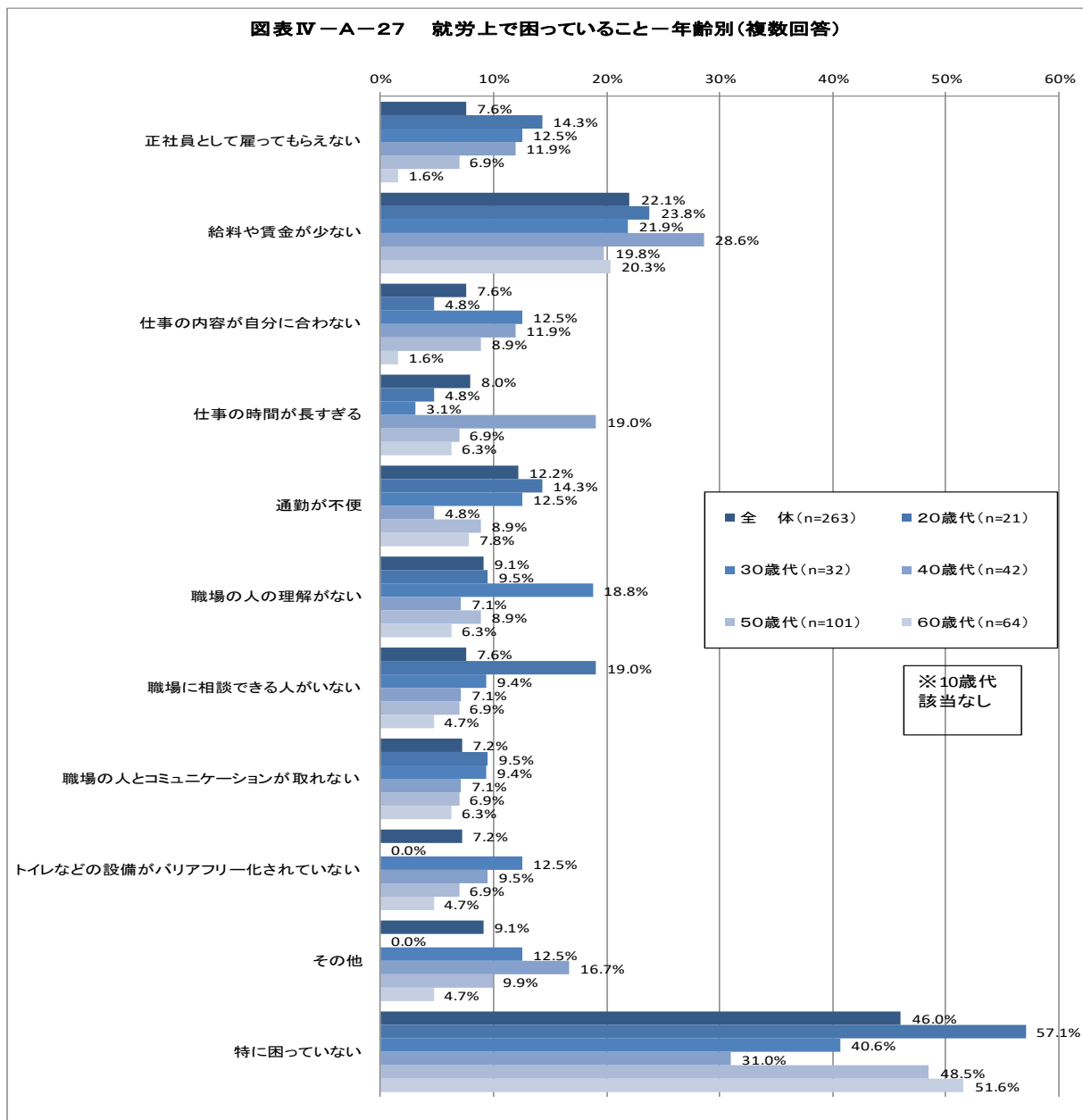


(5) 就労上で困っていること (問20)

問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、就労する上で困っていることはあるかを複数回答でたずねた。

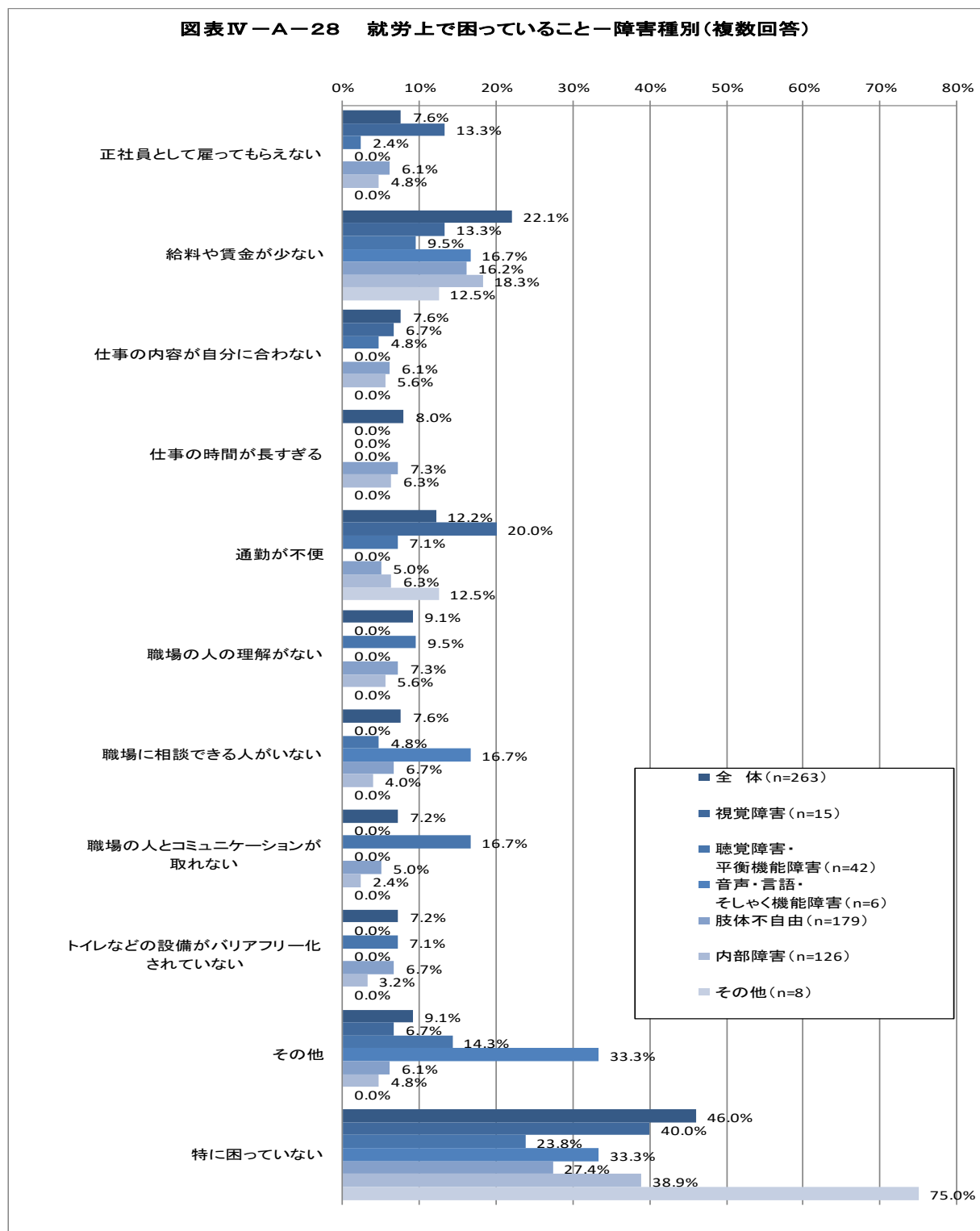
「特に困っていない」は、46.0%、「給料や賃金が少ない」は、22.1%、「通勤が不便」は、12.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、20歳代が57.1%、次に60歳代が51.6%である。「給料や賃金が少ない」は、40歳代が28.6%、次に20歳代が23.8%である。「通勤が不便」は、20歳代が14.3%、次に30歳代が12.5%である。「仕事の時間が長すぎる」は、40歳代が19.0%である。「職場に相談できる人がいない」は、20歳代が19.0%である。「職場の人の理解がない」は、30歳代が18.8%である。



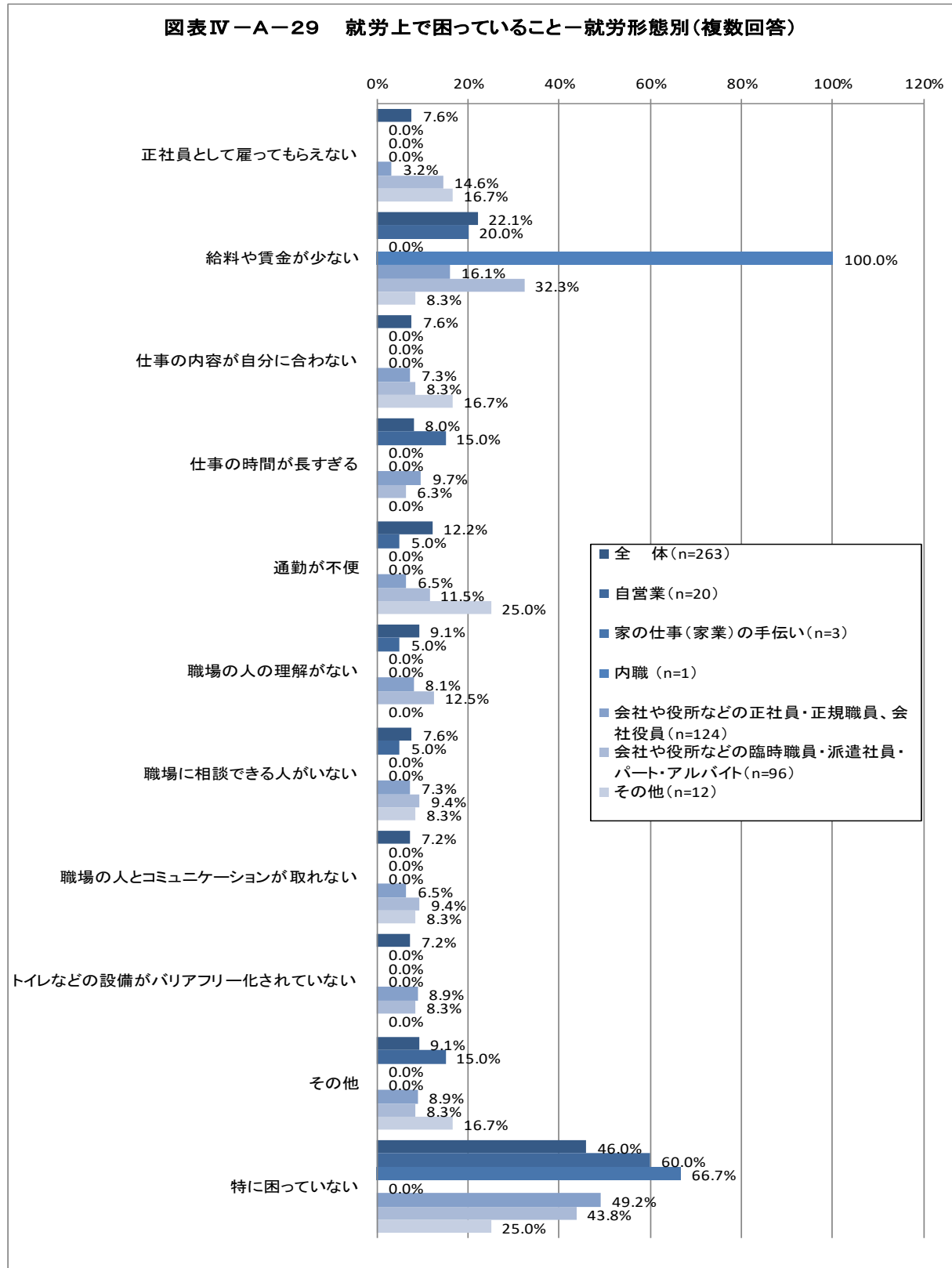
【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、そのほか75.0%、次に視覚障害が40.0%である。

「給料や賃金が少ない」は、内部障害が18.3%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%である。「通勤が不便」は、視覚障害が20.0%である。「職場に相談できる人がいない」は、音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%である。「職場の人とのコミュニケーションが取れない」は、聴覚障害・平衡機能障害が16.7%である。

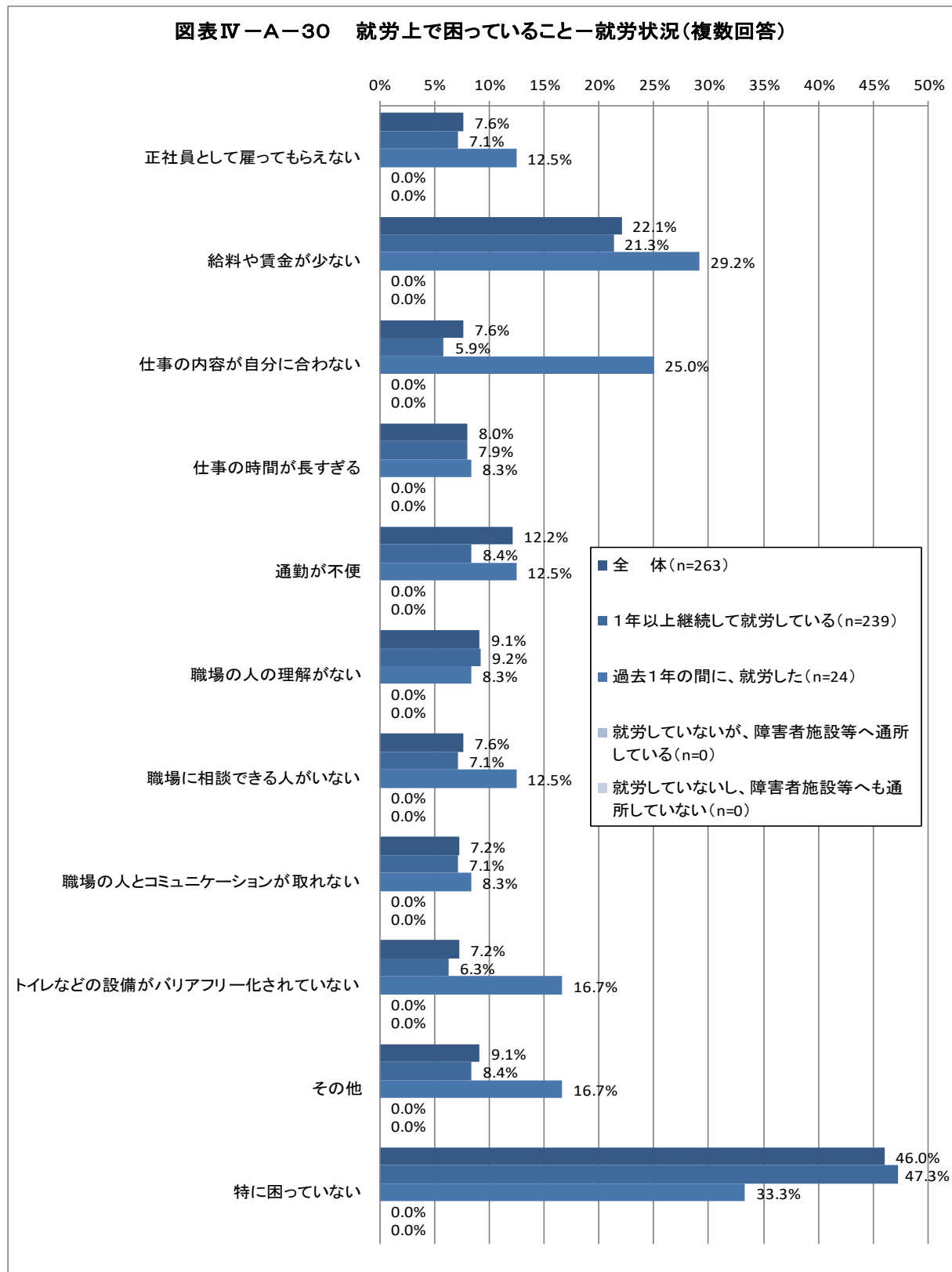


【就労形態別】他の就労形態別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、「家の仕事（家業）の手伝い」が66.7%、次に「自営業」が60.0%である。「給料や賃金が少ない」は、「内職」が100.0%、次に「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」が32.3%である。

図表Ⅳ-A-29 就労上で困っていること—就労形態別（複数回答）



【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、「1年以上継続して就労している」が47.3%、次に「過去1年の間に、就労した」が33.3%である。「給料や賃金が少ない」は、「過去1年の間に、就労した」が29.2%、次に「1年以上継続して就労している」が21.3%である。

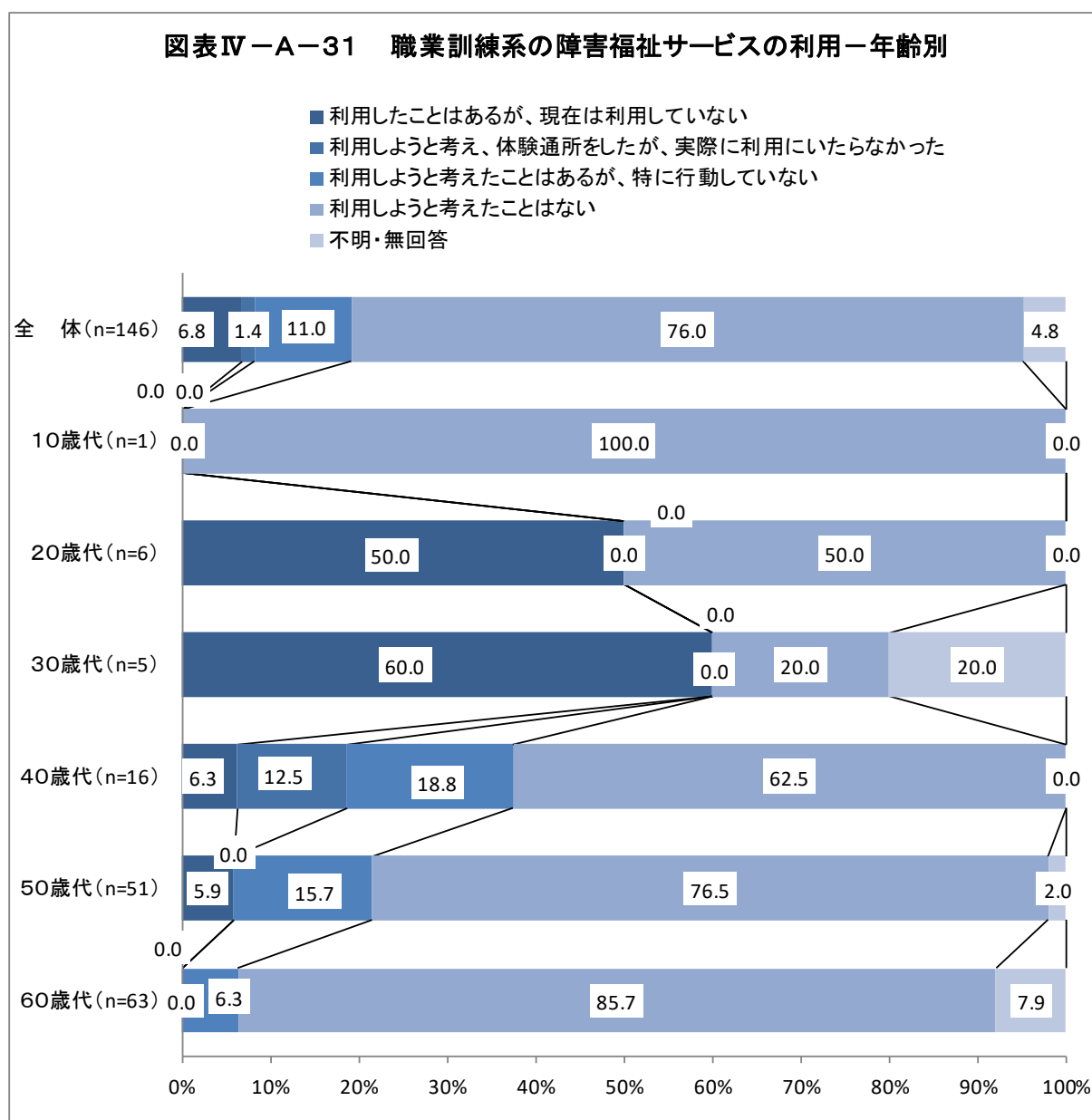


(6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用（問21）

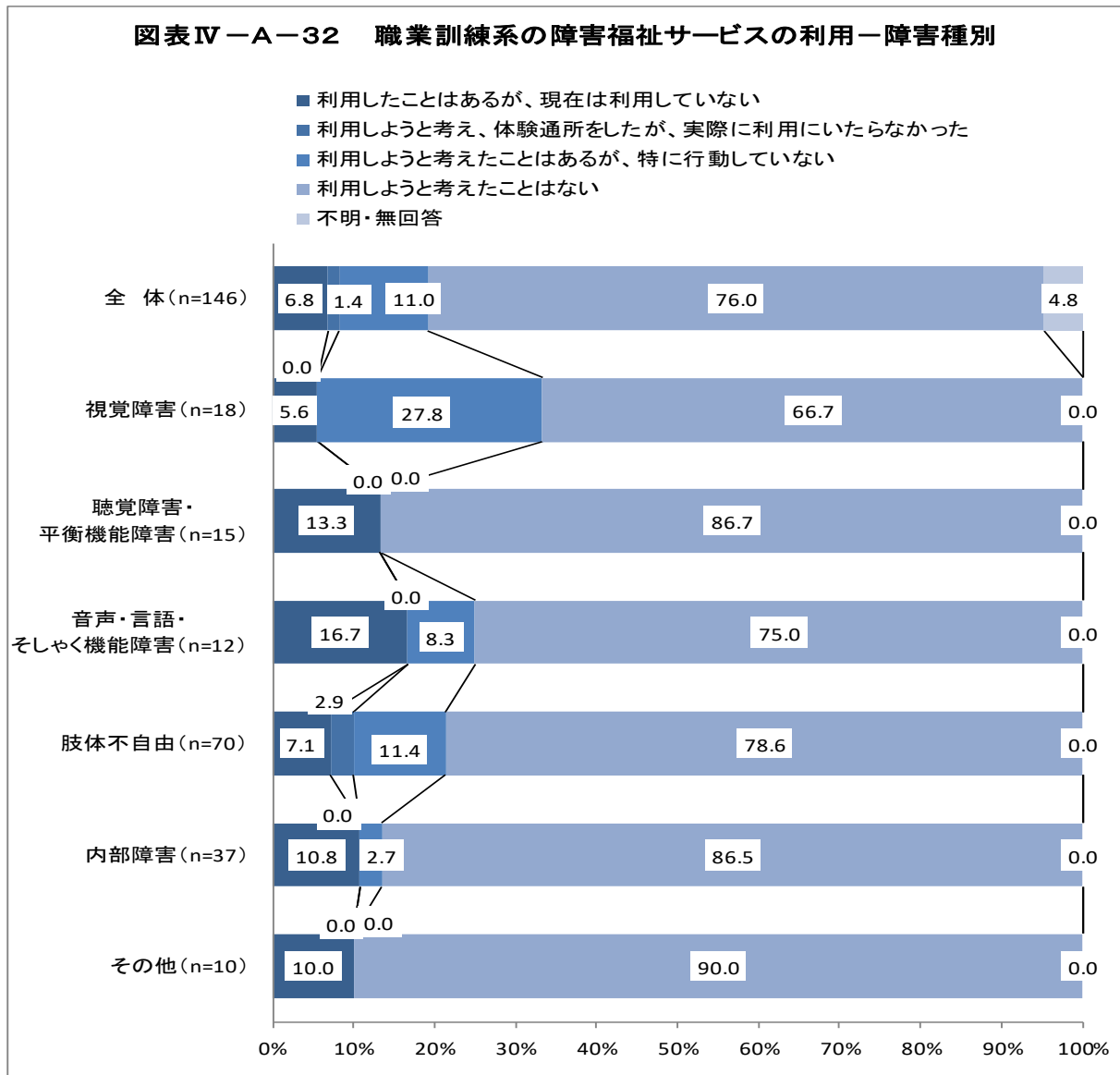
問16で「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、過去に職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

「利用しようと考えたことはない」は、76.0%、「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、11.0%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、6.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用しようと考えたことはない」は、10歳代が100.0%、次に60歳代が85.7%である。「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、40歳代が18.8%、次に50歳代が15.7%である。「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、30歳代が60.0%、次に20歳代が50.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用しようと考えたことはない」は、そのほか90.0%、次に聴覚障害・平衡機能障害が86.7%である。「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、視覚障害が27.8%、次に肢体不自由が11.4%である。「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%、次に聴覚障害・平衡機能障害が13.3%である。

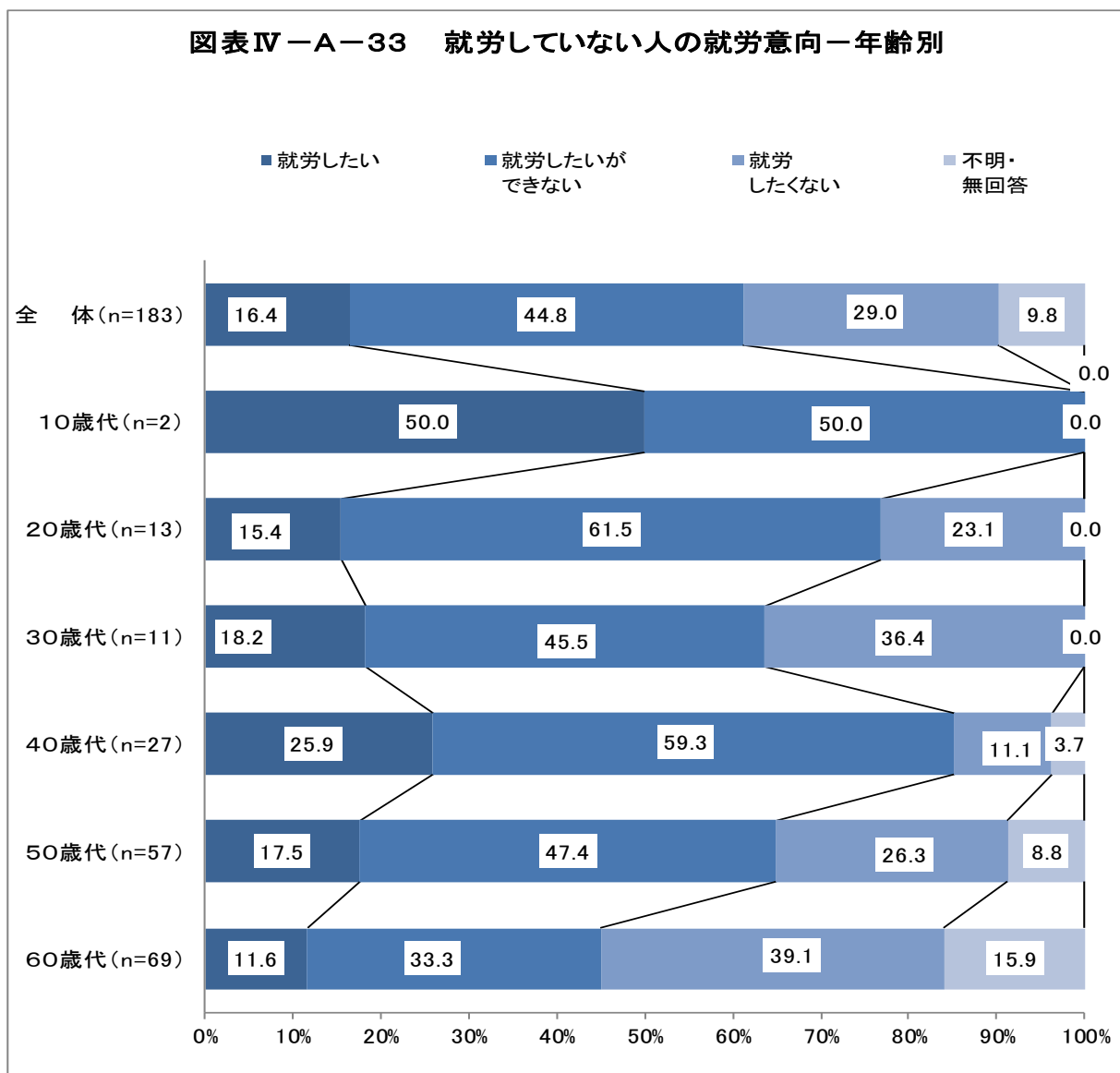


(7) 就労していない人の就労意向 (問22)

問16で「就労していないが、障害者施設等へ通所している」または「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、就労をしたいかをたずねた。

「就労したいができない」は、44.8%、「就労したくない」は、29.0%、「就労したい」は、16.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「就労したいができない」は、20歳代が61.5%、次に40歳代が59.3%である。「就労したくない」は、60歳代が39.1%、次に30歳代が36.4%である。「就労したい」は、10歳代が50.0%、次に40歳代が25.9%である。



(8) 就労したい人の希望職種 (問23)

問22で「就労したい」と回答した人に、どのような内容の仕事をしたと思うかをたずねた。

「その他」は、30.0%、「生産工程」は、26.7%、「サービス業」は、20.0%、「医療関係」は、10.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答（その他以外）を見てみると、「生産工程」は、60歳代が62.5%、次に40歳代が28.6%である。「サービス業」は、30歳代が50.0%、次に50歳代が30.0%である。「医療関係」は、10歳代が100.0%、次に20歳代が50.0%である。

図表Ⅳ-A-34 就労したい人の希望職種一年齢別

| | | 農業、林業、漁業 | 一般事務 | 営業、販売 | 医療関係 | 専門的、技術的職業 | サービス業（調理人、接客業、ビルや駐車場の管理人、警備員、清掃業など） | 生産工程（部品組み立てや仕分け作業、採掘・製造・建設作業、運輸・通信など） | その他 | 不明・無回答 | 合計 |
|------------|--------------|----------|------|-------|-------|-----------|-------------------------------------|---------------------------------------|------|--------|-------|
| 全 体 (n=30) | | 3.3 | 6.7 | 0.0 | 10.0 | 3.3 | 20.0 | 26.7 | 30.0 | 0.0 | 100.0 |
| 年 齢 | 10歳代 (n= 1) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| | 20歳代 (n= 2) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 100.0 |
| | 30歳代 (n= 2) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 100.0 |
| | 40歳代 (n= 7) | 0.0 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 28.6 | 28.6 | 28.6 | 0.0 | 100.0 |
| | 50歳代 (n= 10) | 10.0 | 10.0 | 0.0 | 10.0 | 10.0 | 30.0 | 10.0 | 20.0 | 0.0 | 100.0 |
| | 60歳代 (n= 8) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 62.5 | 37.5 | 0.0 | 100.0 |

【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答(その他以外)を見てみると、「生産工程」は、視覚障害と音声・言語・そしゃく機能障害が40.0%、次に肢体不自由が28.6%である。「サービス業」は、肢体不自由が21.4%である。「医療関係」は、内部障害が40.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が20.0%である。

図表Ⅳ-A-35 就労したい人の希望職種－障害種別

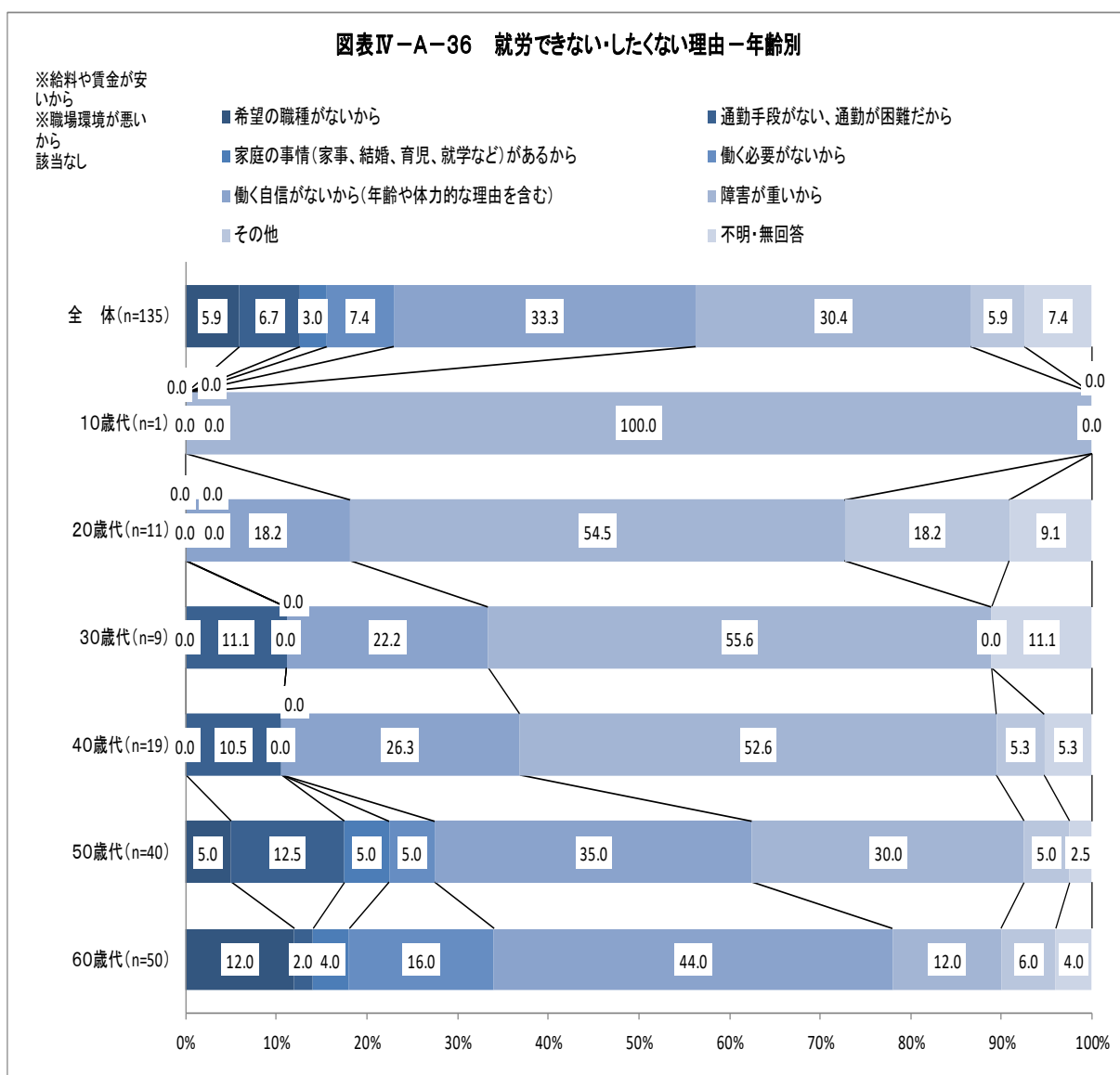
| | | 農業、林業、漁業 | 一般事務 | 営業、販売 | 医療関係 | 専門的、技術的職業 | サービス業（調理人、接客業、ビルや駐車場などの管理人、警備員、清掃業など） | 生産工程（部品組み立てや仕分け作業、採掘・製造・建設作業、運輸・通信など） | その他 | 不明・無回答 | 合計 |
|------------|-----------------------|----------|------|-------|------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------|--------|-------|
| 全体 (n= 30) | | 3.3 | 6.7 | 0.0 | 10.0 | 3.3 | 20.0 | 26.7 | 30.0 | 0.0 | 100.0 |
| 障害種別 | 視覚障害 (n= 5) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 20.0 | 40.0 | 40.0 | 0.0 | 100.0 |
| | 聴覚障害・平衡機能障害 (n= 2) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 |
| | 音声・言語・そしゃく機能障害 (n= 5) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 20.0 | 40.0 | 20.0 | 0.0 | 100.0 |
| | 肢体不自由 (n=14) | 0.0 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 7.1 | 21.4 | 28.6 | 28.6 | 0.0 | 100.0 |
| | 内部障害 (n=5) | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 40.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 100.0 |
| | その他 (n= 2) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |

(9) 就労できない・したくない理由 (問24)

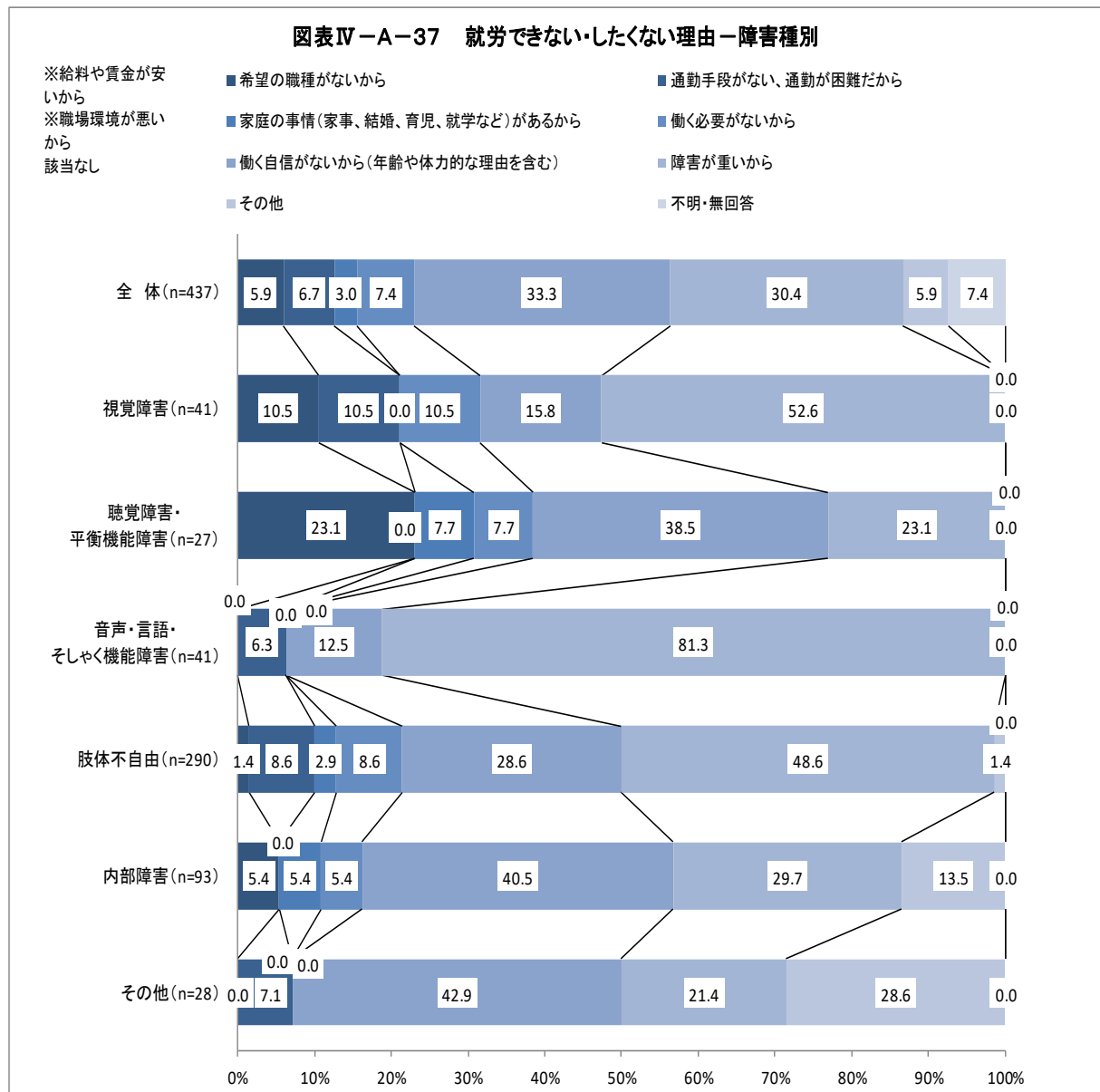
問22で「就労したいができない」または「就労したくない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「働く自信がないから」は、33.3%、「障害が重いから」は、30.4%、「働く必要がないから」は、7.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「働く自信がないから」は、60歳代が44.0%、次に50歳代が35.0%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害が重いから」は、10歳代が100.0%、次に30歳代が55.6%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「働く必要がないから」は、60歳代が16.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「働く自信がないから」は、そのほか42.9%、内部障害が40.5%、聴覚障害・平衡機能障害が38.5%である。「障害が重いから」は、音声・言語・そしゃく機能障害が81.3%、次に視覚障害が52.6%である。「希望の職種がないから」は、聴覚障害・平衡機能障害が23.1%、次に視覚障害が10.5%である。

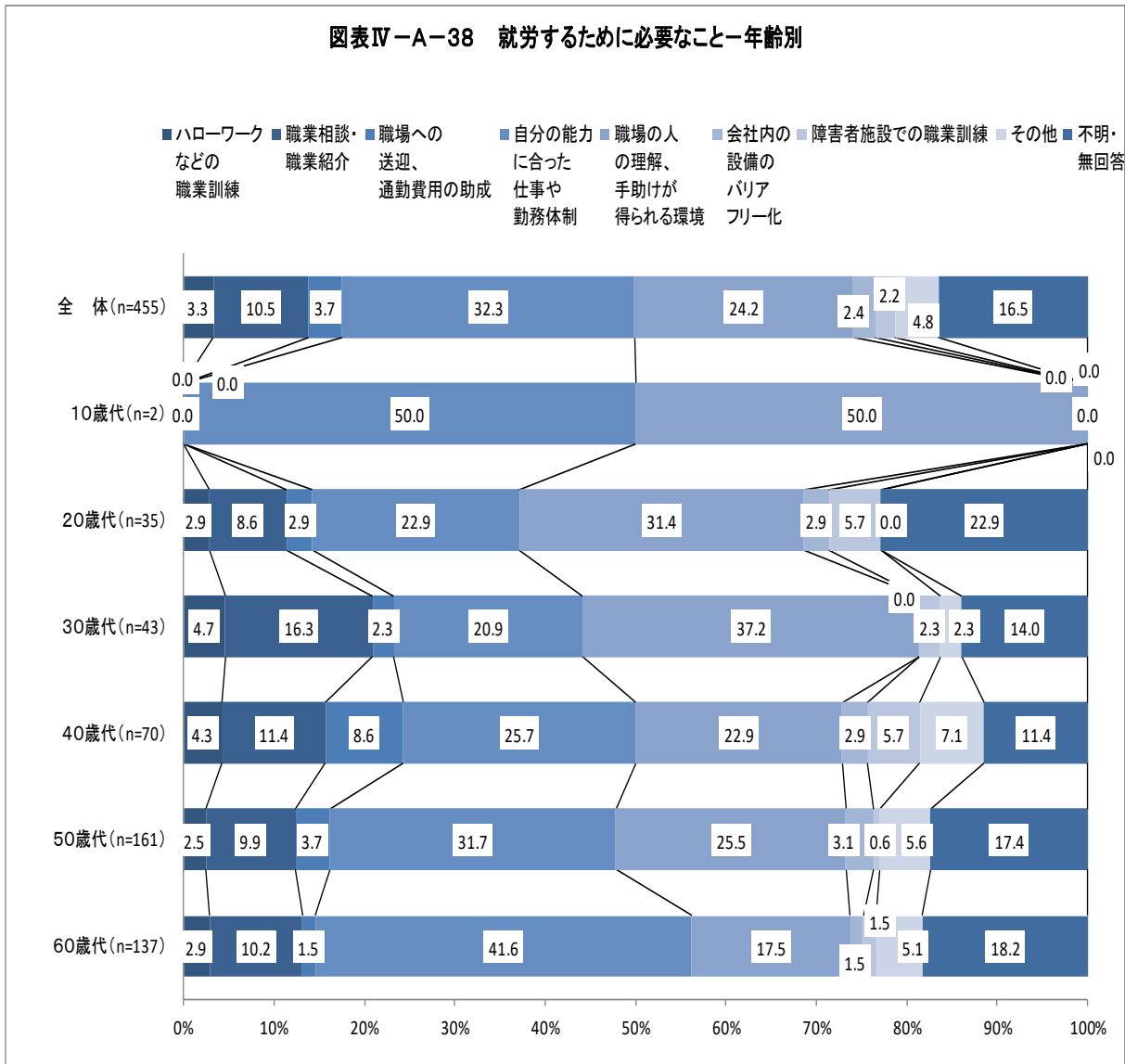


(10) 就労するために必要なこと (問25)

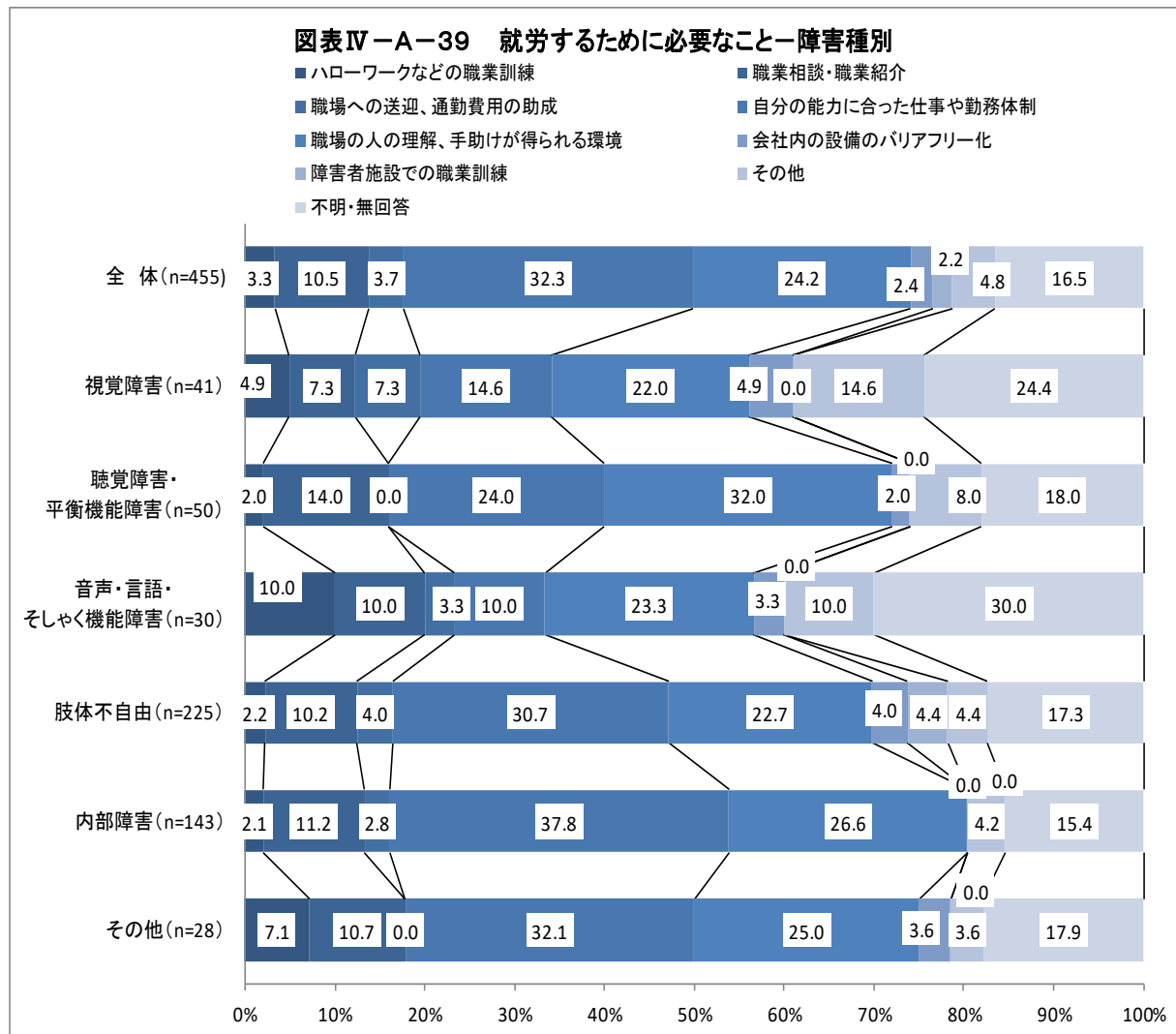
全員に、就労するために必要なことは何だと思うかをたずねた。

「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、32.3%、「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、24.2%、「職業相談・職業紹介」は、10.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、10歳代が50.0%、次に60歳代が41.6%である。「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、10歳代が50.0%、次に30歳代が37.2%である。「職業相談・職業紹介」は、30歳代が16.3%、次に40歳代が11.4%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、内部障害が 37.8%、次にそのほかが 32.1%、肢体不自由が 30.7%である。「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、聴覚障害・平衡機能障害が 32.0%、次に内部障害が 26.6%である。「職業相談・職業紹介」は、聴覚障害・平衡機能障害が 14.0%、次に内部障害が 11.2%である。



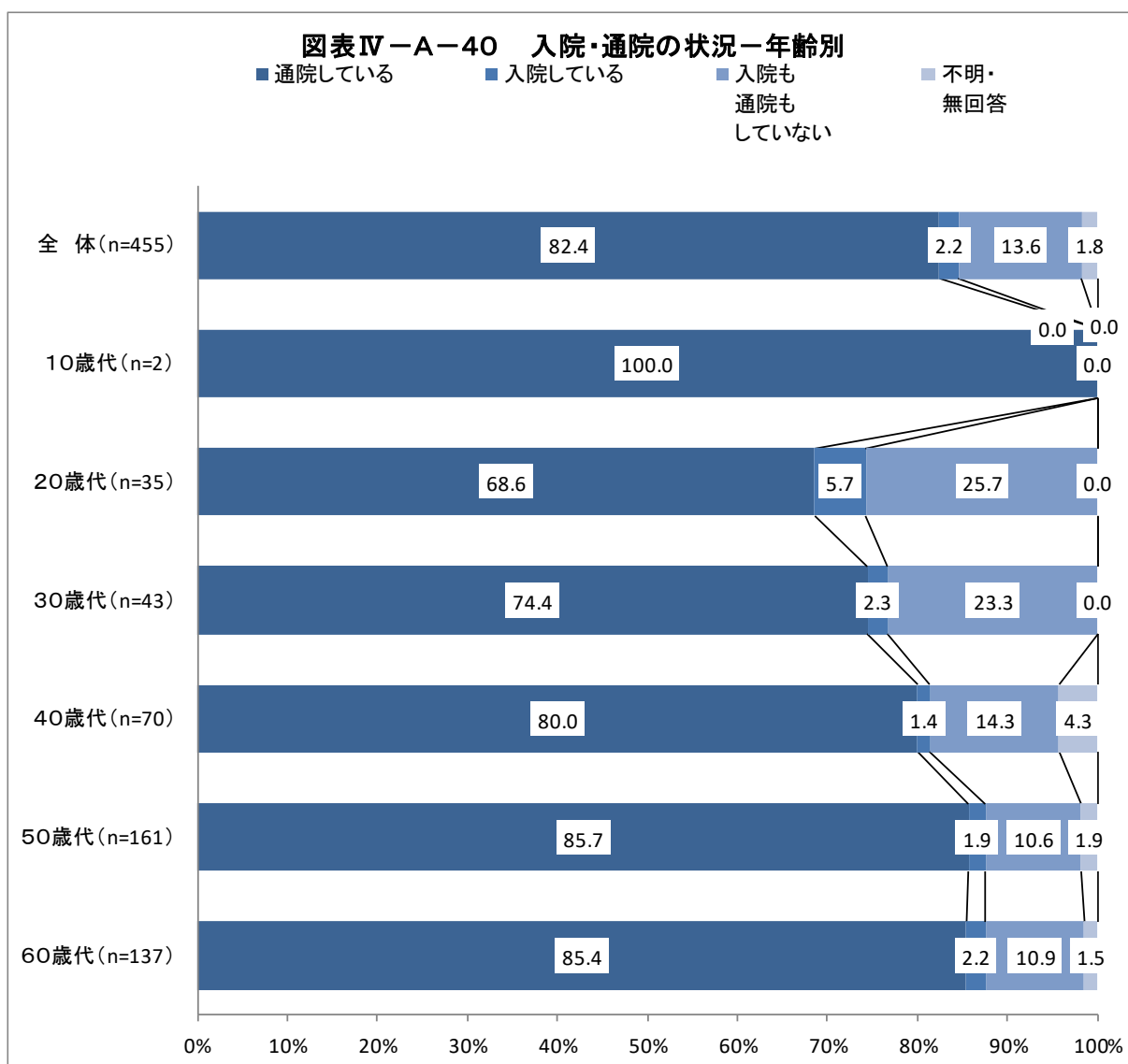
4 入院・通院について

(1) 入院・通院の状況（問26）

現在、入院や通院をしているかをたずねた。

「通院している」は、82.4%、「入院も通院もしていない」は、13.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通院している」は、10歳代が100.0%、次に50歳代が85.7%である。「入院も通院もしていない」は、20歳代が25.7%、次に30歳代が23.3%である。

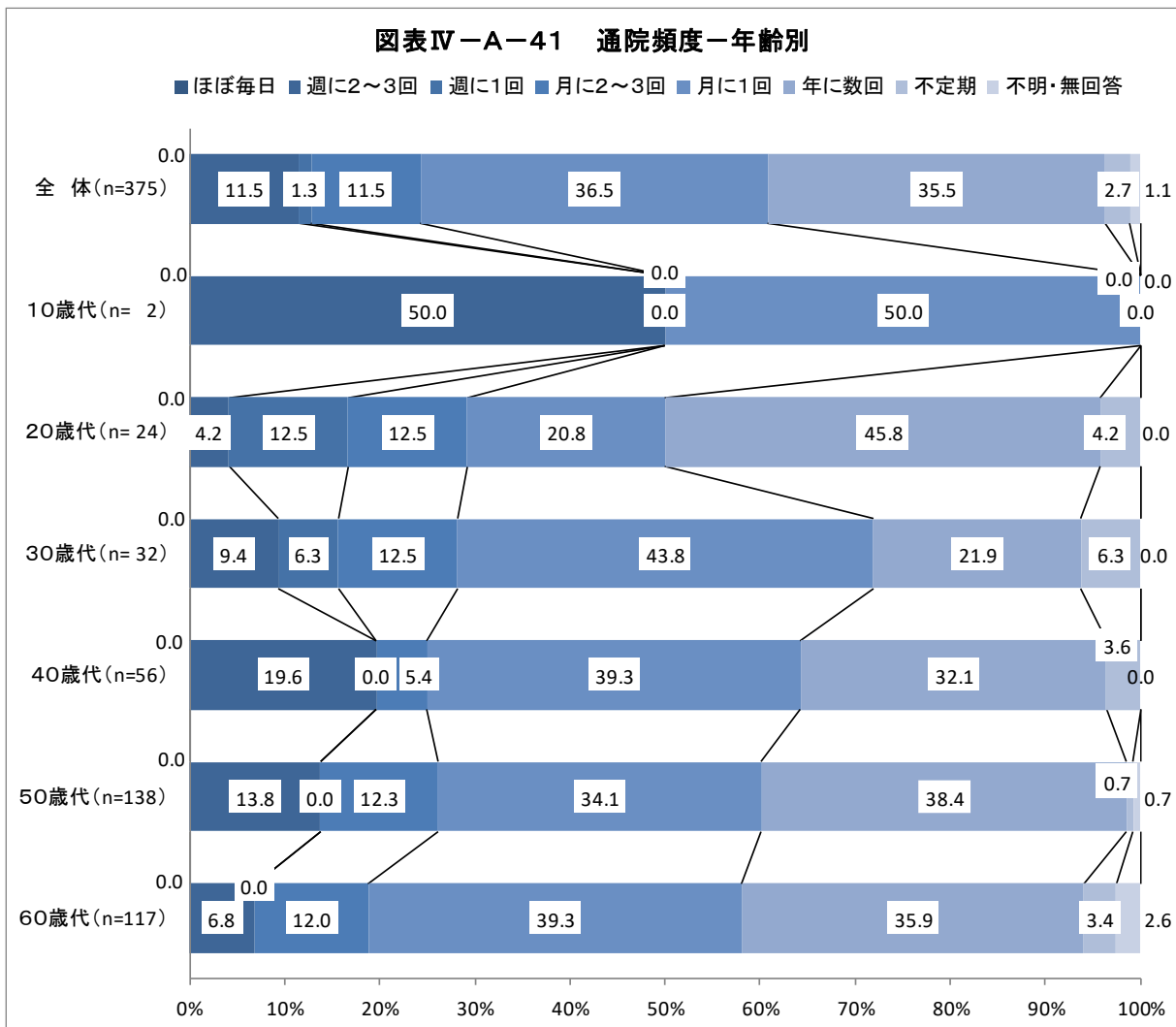


(2) 通院頻度 (問 27)

問 26 で「通院している」と回答した人に、現在、どのくらい医療機関に通院しているかたずねた。

「月に1回」は、36.5%、「年に数回」は、35.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「週に2~3回」は、10歳代が50.0%、次に40歳代が19.6%である。「月に1回」は、10歳代が50.0%、次に30歳代が43.8%である。「年に数回」は、20歳代が45.8%、次に50歳代が38.4%である。



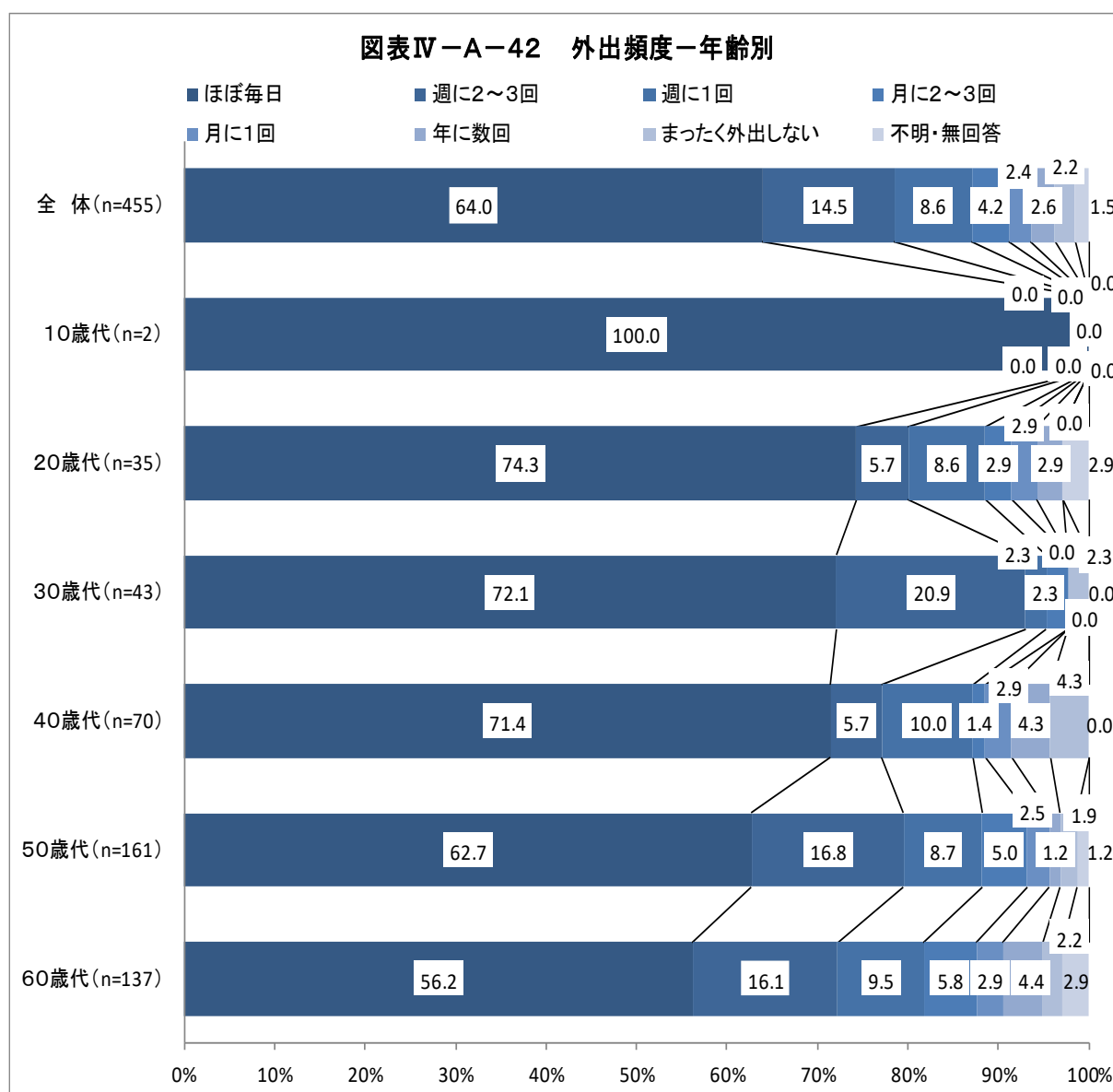
5 外出について

(1) 外出頻度 (問28)

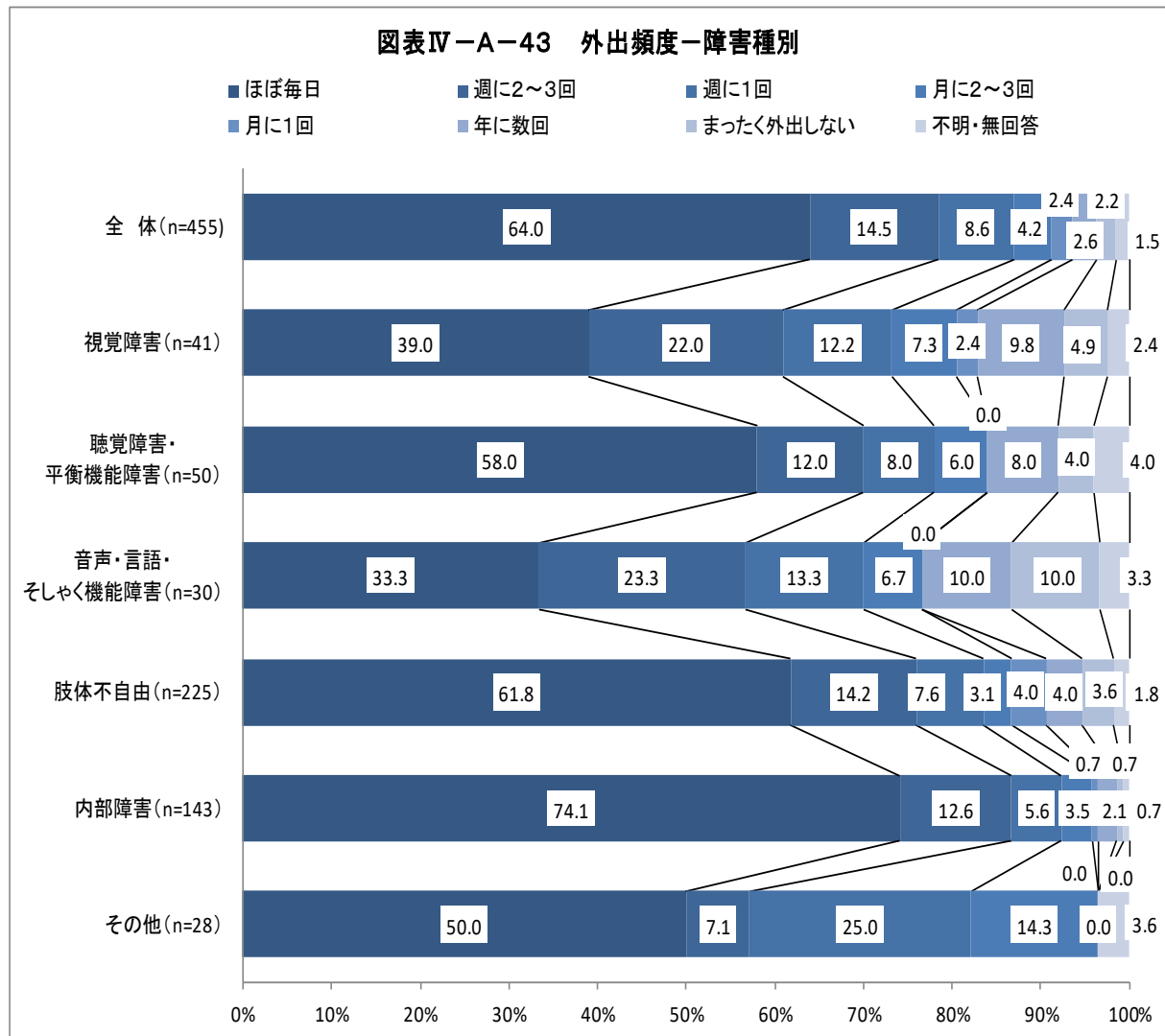
現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、64.0%、「週に2~3回」は、14.5%、「週に1回」は、8.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、10歳代が100.0%、次に20歳代が74.3%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「週に2~3回」は、30歳代が20.9%、次に50歳代が16.8%である。「週に1回」は、40歳代が10.0%、次に60歳代が9.5%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、内部障害が74.1%、次に肢体不自由が61.8%である。「週に2～3回」は、音声・言語・そしゃく機能障害が23.3%、次に視覚障害が22.0%である。「週に1回」は、その他が25.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が13.3%である。

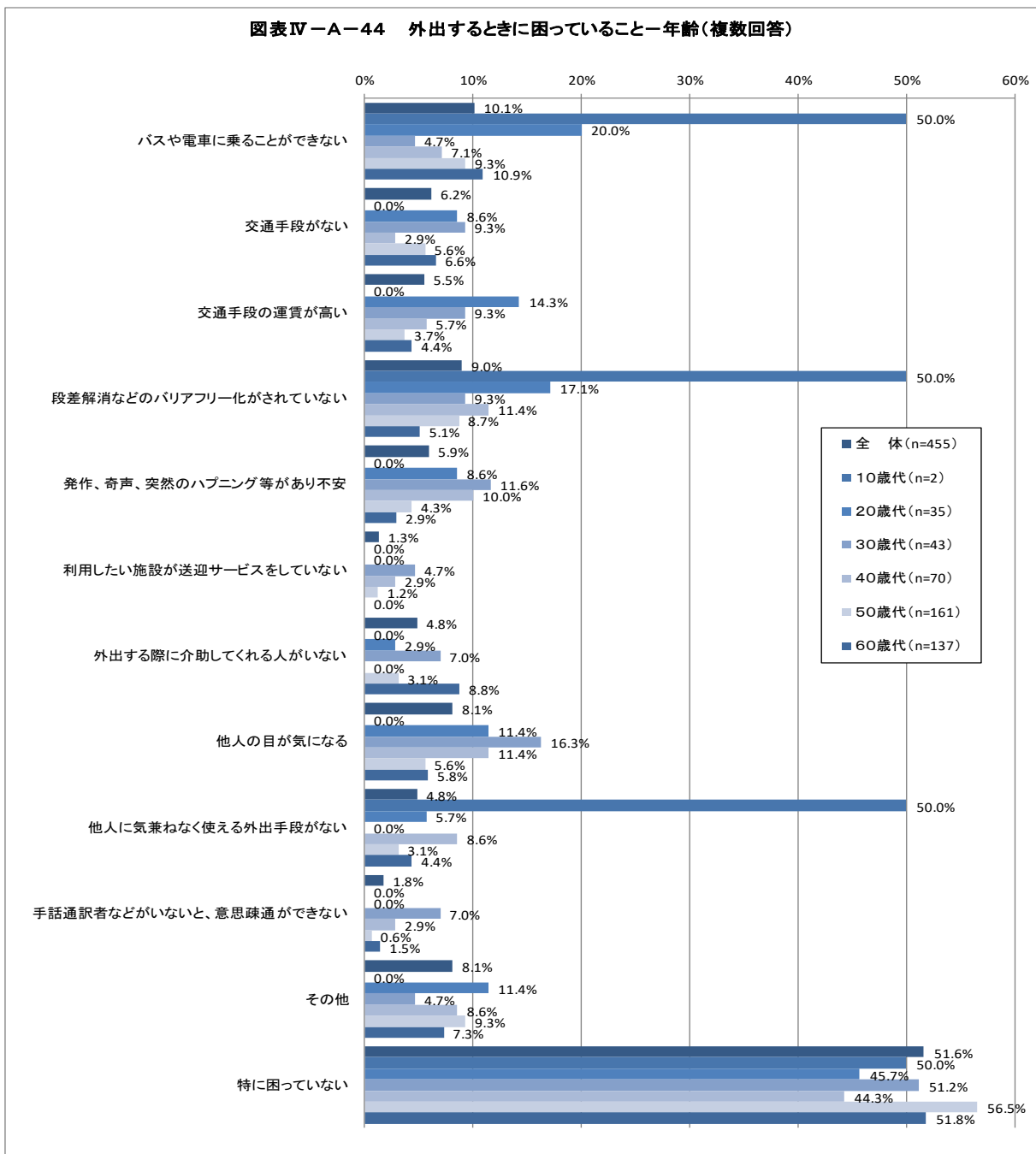


(2) 外出時に困っていること (問29)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

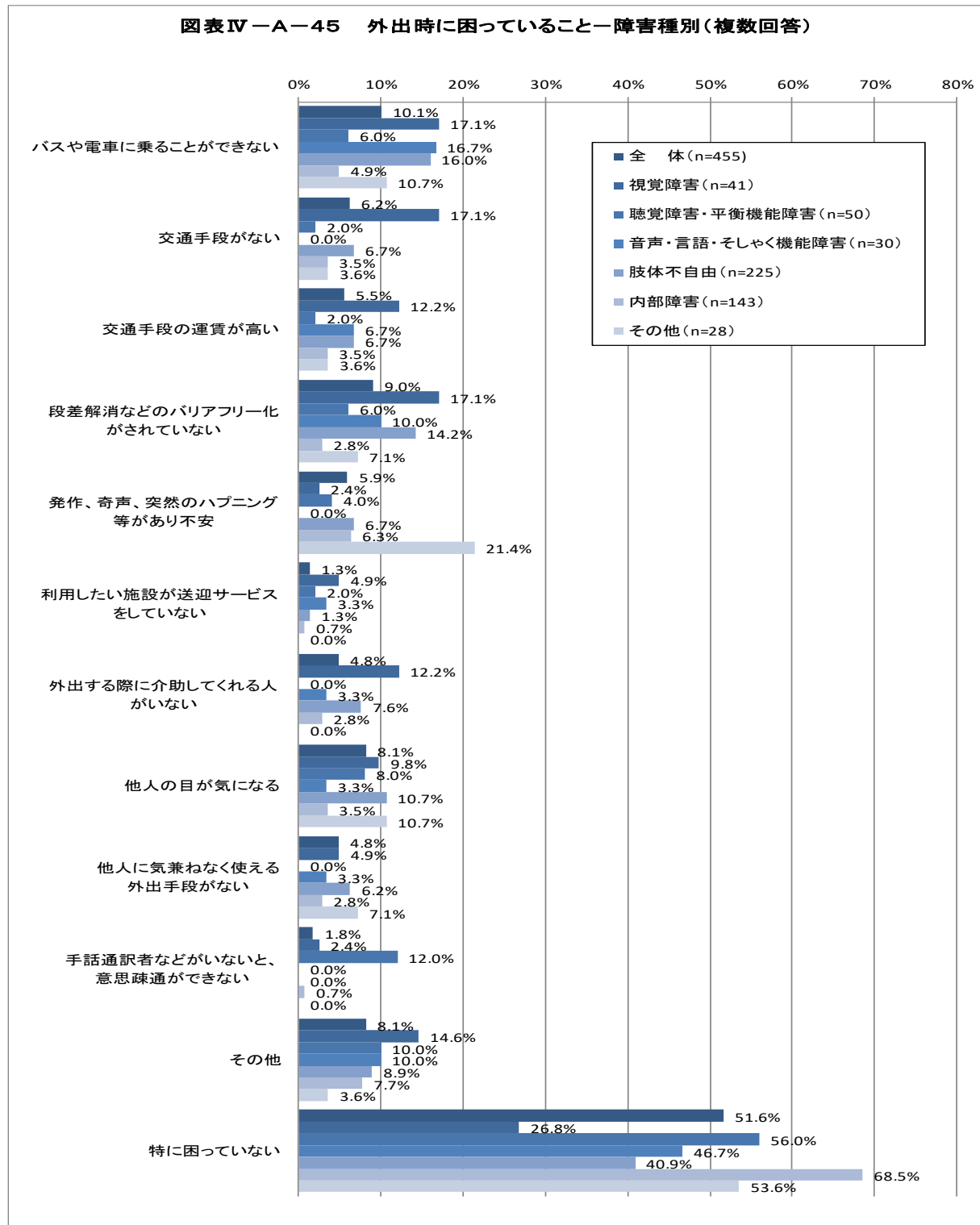
「特に困っていない」は、51.6%、「バスや電車に乗ることができない」は、10.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、50歳代が56.5%、次に60歳代が51.8%である。「バスや電車に乗ることができない」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が20.0%である。「段差解消などのバリアフリー化がされていない」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が17.1%である。「他人の目が気になる」は、30歳代が16.3%、次に20歳代と40歳代が11.4%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、内部障害が68.5%、次に聴覚障害・平衡機能障害が56.0%である。「バスや電車に乗ることができない」は、視覚障害が17.1%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%である。「段差解消などのバリアフリー化がされていない」は、視覚障害が17.1%、次に肢体不自由が14.2%である。

図表Ⅳ-A-45 外出時に困っていること—障害種別(複数回答)

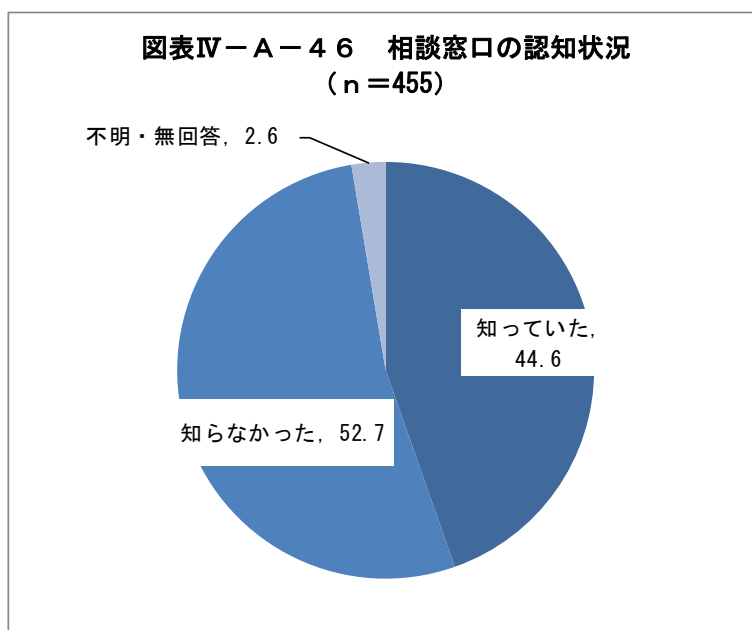


6 相談窓口について

(1) 相談窓口の認知状況 (問30)

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

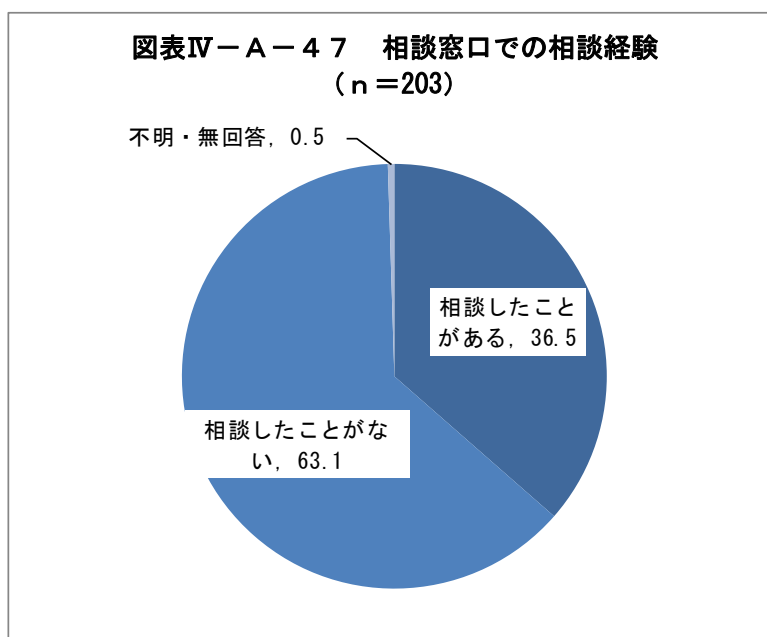
「知っていた」は、44.6%、「知らなかった」は、52.7%である。



(2) 相談窓口での相談経験 (問31)

問30で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

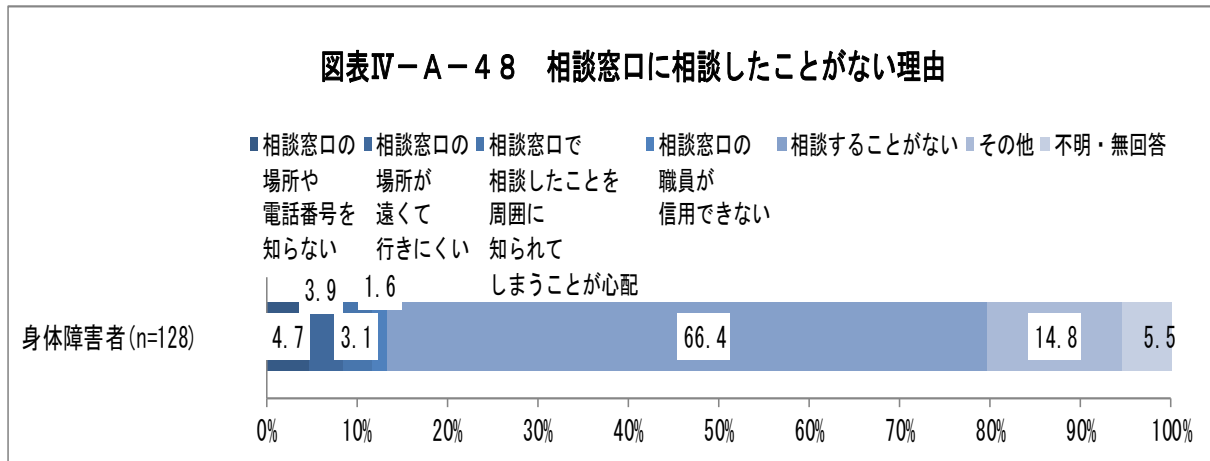
「相談したことがある」は、36.5%、「相談したことがない」は、63.1%である。



(3) 相談窓口相談したことがない理由 (問32)

問31で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、66.4%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、4.7%である。



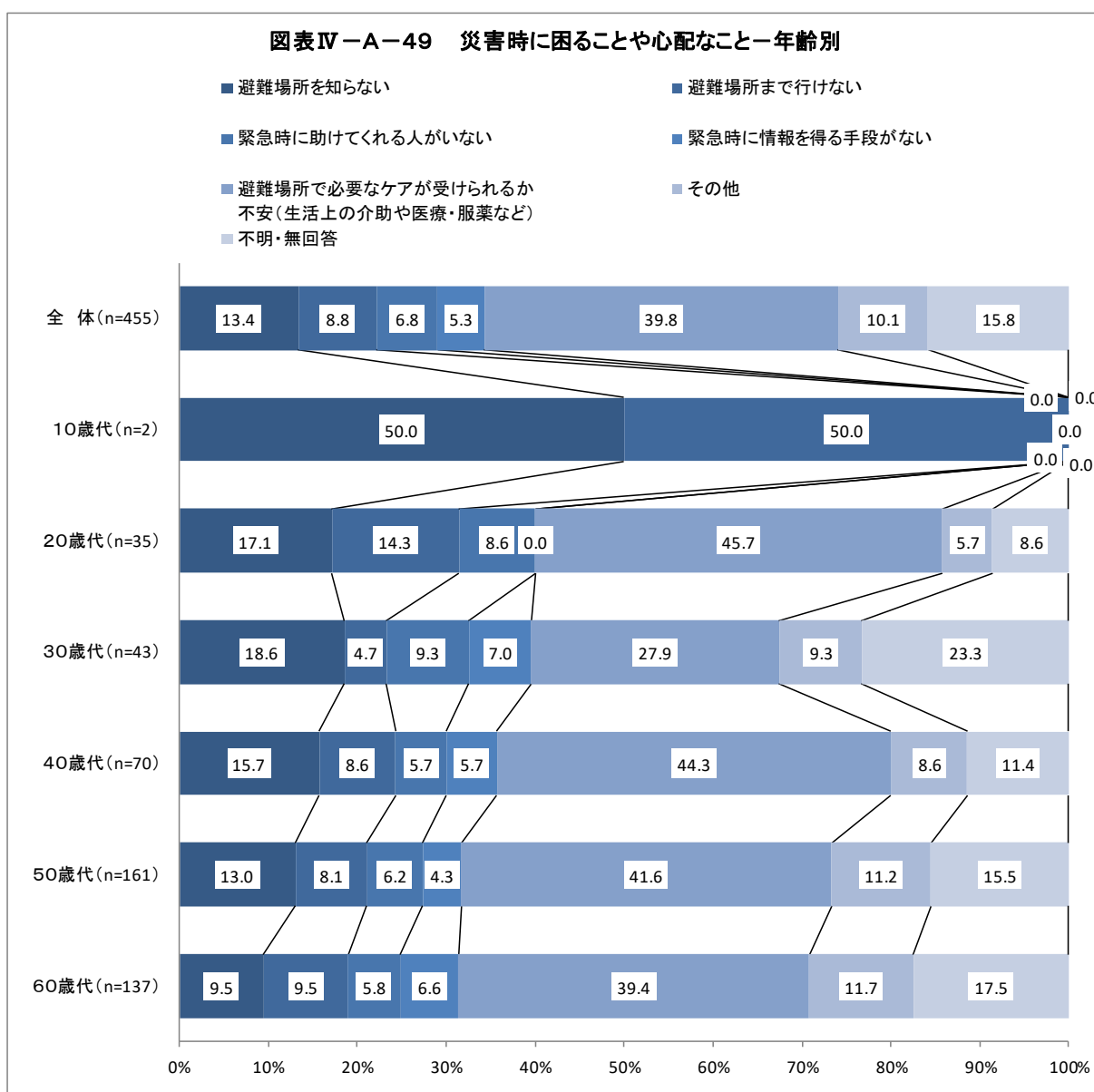
7 災害時について

(1) 災害時に困ることや心配なこと（問33）

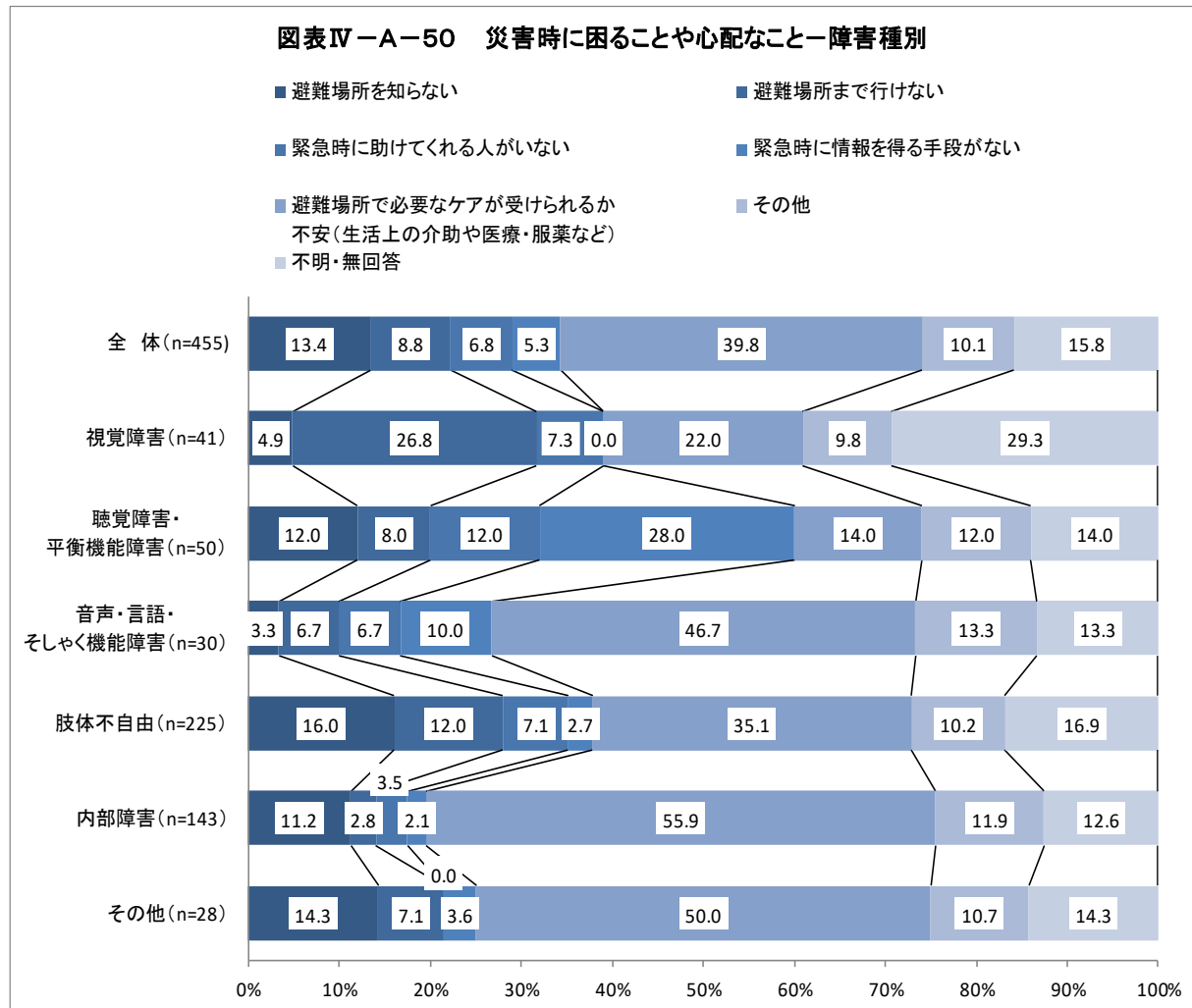
災害が発生したときに、困ることや心配なことは何かをたずねた。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、39.8%、「避難場所を知らない」は、13.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、20歳代が45.7%、次に40歳代が44.3%である。「避難場所を知らない」は、10歳代が50.0%、次に30歳代が18.6%である。「避難場所まで行けない」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が14.3%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「避難場所が必要なケアが受けられるか不安」は、内部障害が55.9%、次にそのほかが50.0%、音声・言語・そしゃく機能障害が46.7%である。「避難場所を知らない」は、肢体不自由が16.0%、次にそのほかが14.3%である。「避難場所まで行けない」は、視覚障害が26.8%、次に肢体不自由が12.0%である。



8 障害のある人への差別について

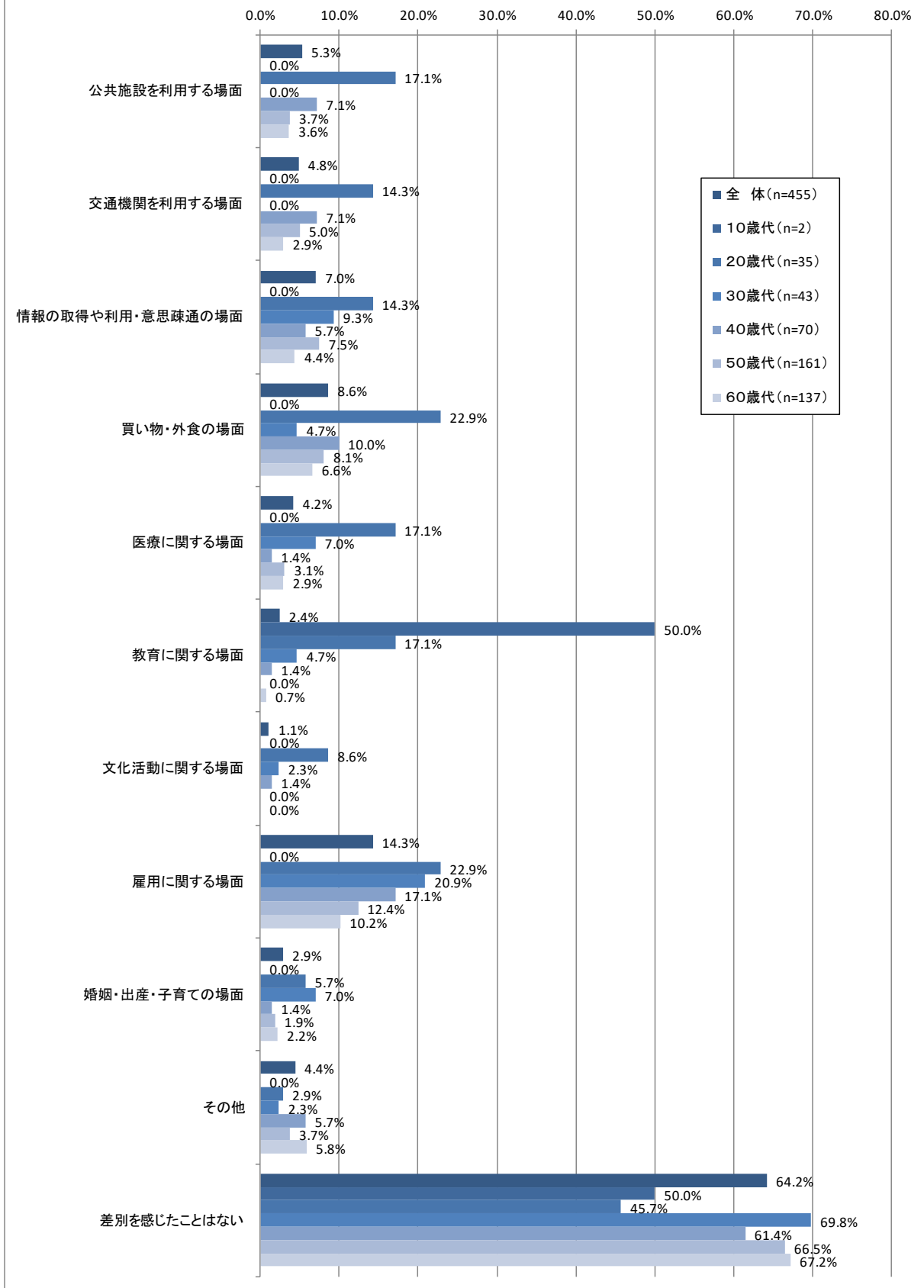
(1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問34）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

「差別を感じたことはない」は、64.2%、「雇用に関する場面」は、14.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「差別を感じたことはない」は、30歳代が69.8%、次に60歳代が67.2%である。「雇用に関する場面」は、20歳代が22.9%、次に30歳代が20.9%である。「教育に関する場面」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が17.1%である。「買い物・外食の場面」は、20歳代が22.9%、次に40歳代が10.0%である。

図表Ⅳ-A-51 障がい差別と感じた場面(複数回答)一年齢別

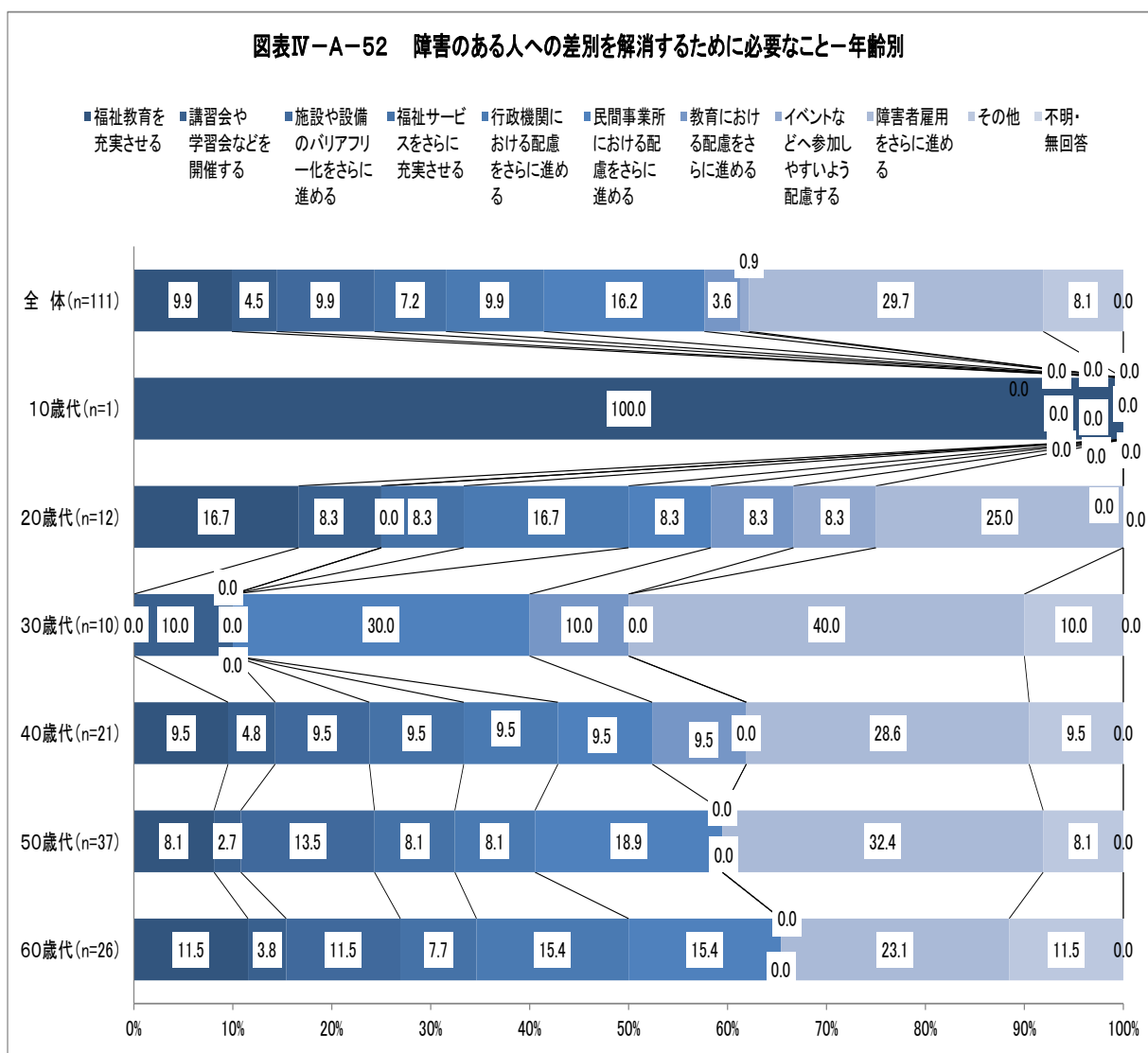


(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること（問35）

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「障害者雇用をさらに進める」は、29.7%、「民間事業所における配慮をさらに進める」は、16.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「障害者雇用をさらに進める」は、30歳代が40.0%、次に50歳代が32.4%、40歳代28.6%である。「民間事業所における配慮をさらに進める」は、30歳代が30.0%、次に50歳代が18.9%である。「福祉教育を充実させる」は、10歳代が100.0%、次に20歳代が16.7%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、20歳代が16.7%、次に60歳代が15.4%である。



9 社会生活について

(1) 社会生活を営む上で必要と考えること（問36）

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「経済的な支援」は、29.5%、「社会的な理解の促進」は、23.5%、「雇用促進と就労支援」は、12.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「経済的な支援」は、10歳代が50.0%、次に60歳代が32.8%である。「社会的な理解の促進」は、10歳代が50.0%、次に30歳代が37.2%である。「障害福祉サービスの充実」は、20歳代が28.6%、次に30歳代が14.0%である。「雇用促進と就労支援」は、40歳代が17.1%、次に20歳代が14.3%である。

